令和5年度
全国公立大学学生大会
LINKtopos2023
in Okinawa

「彩（いろどり）」

報告書

2023年度公立大学学生ネットワーク運営学生

【2023報告書目次】

はじめに
1.令和５年度大会プログラム
2.参加者の対象と推移

3.活動内容とその成果
3.1 大会 1 日目
3.1.1 開会式
3.1.2 三線演奏
3.1.3 アイスブレイク
3.1.3.1 アイスブレイク（満足度）事後アンケート結果/参加者の声
3.1.4 まちあるき
3.1.4.1 まちあるき（満足度）事後アンケート結果/参加者の声
3.1.5 1日目総括

3.2 大会 2 日目
3.2.1 フリートーク
3.2.1.1 フリートーク（満足度）事後アンケート結果/参加者の声
3.2.2　2日目総括

3.3 ワークショップ
3.3.1 テーマ①平和ってなんだろう？
3.3.1.1 講演会
3.3.1.2 フィールドワーク（沖縄県平和祈念資料館）
3.3.1.3 テーマ別共有会（作成物一覧）
3.3.1.4 WS満足度/参加者の声

3.3.2 テーマ②なぜ？どうして？みんなで考えよう、教育の課題！
3.3.2.1 テーマ別報告会（成果物一覧）
3.3.2.2 WS満足度/参加者の声

3.3.3 テーマ③縁を繋ぐ～沖縄から地域の未来へ～
3.3.3.1 講演会
3.3.3.2 テーマ別報告会（成果物一覧）
3.3.3.3 WS満足度/参加者の声

3.4 大会3日目
3.4.1 ポスターセッション
3.4.1.1 ポスターセッション（満足度）事後アンケート結果/参加者の声

3.4.2 全体共有会
3.4.2.1 全体共有会（満足度）事後アンケート結果/参加者の声
3.4.3 3日目総括

3.5 オープンチャットの活用について
3.5.1 連絡面における参加者の声

3.6 SNSの活用について

3.7 プログラム全体を通して
3.7.1 プログラム全体の事後アンケート結果/参加者の声

3.8 大学からの補助について
3.8.1 参加者による大学からの支援の詳細について

4.ファシリテーション講座について
4.1 ファシリテーション講座の事後アンケート結果

5. 次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言
6. 全国公立大学学生大会の今後の展望について
7. 謝辞
8. 公立大学学生ネットワーク運営学生 名簿

はじめに

今年も昨年度に引き続き、対面開催となった。企画チーム専門委員の先生方をはじめ、公立大学協会事務局の皆様、沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学の教職員の皆様の協力、参加していただいた皆様のおかげで無事に大会を終えることができた。

今大会テーマ「彩（いろどり）」とし、獲得目標を３つ挙げた。

① 彩をつくる
沖縄での学びや経験を通して、自分の成長につなげよう

② 彩に気づく
全国から集まる仲間たちと交流・協力し、自分や他の人の個性や強みに気が付き、高め合おう

③ 彩を考える
各地域の活動について知り、自分たちの地域をよりよく出来ることについて考えよう

これらの獲得目標が達成できるように今年のプログラムを作成した。また、今年は沖縄で対面開催である事から、普段考えることの少ない沖縄の課題について考える機会を設けた。今年で11回目となるLINKtoposは昨年度の再出発を踏まえて走りし、今後の展望が期待される年であった。参加者数は96名、参加大学数は23校となった。以下は今回の大会に関してのまとめである。LINKtoposへの理解と来年度以降のLINKtoposの活動に役立ててほしい。

2023年度公立大学学生ネットワーク　代表
沖縄県立看護大学　看護学部看護学科4年　脇田 愛未

【全体写真】

1.令和５年度大会プログラム

１日目　【９月４日（月）　沖縄県立芸術大学】

時間	プログラム	会場
13：30～14：00	受付	沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス　体育館
14：00～14：30	開会式（挨拶、三線演奏）	
14：30～15：00	アイスブレイク	
15：00～18：20	まちあるき	首里地域
18：20～18：30	諸連絡	沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス　体育館
18：30	解散	

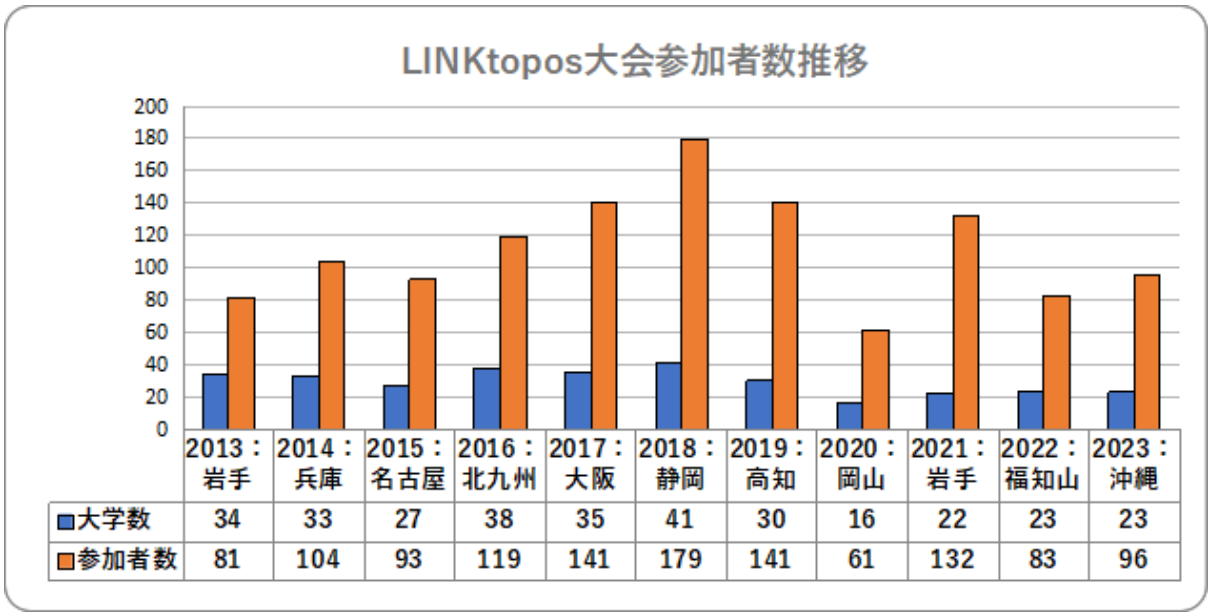
２日目【９月５日（火）　沖縄県立看護大学】

時間	プログラム	会場
9：30～9：45	受付	沖縄県立看護大学 大講義室（4階）
9：45～9：50	諸連絡	
9：50～10：00	移動	
10：00～16：00 ※途中お昼休憩あり	ワークショップ	WS１：担当が指示するところ WS２：講義室5（2階） WS３：特別講義室（4階）
16：00～16：10	休憩	
16：10～16：50	フリートーク	沖縄県立看護大学 大講義室（4階）
16：50～17：00	諸連絡	
17：00	解散	

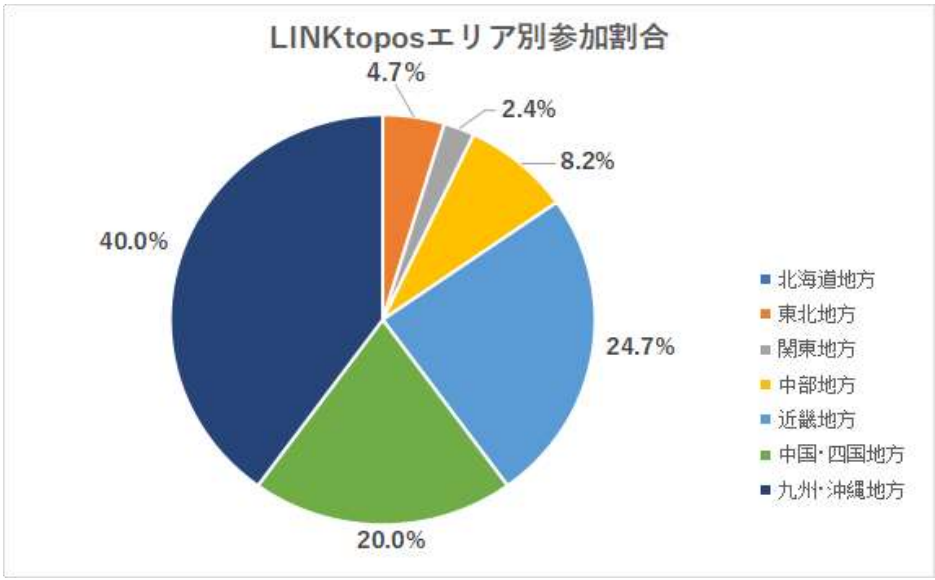
３日目【９月６日（水）　沖縄県立看護大学】

時間	プログラム	会場
9：00～9：30	受付	沖縄県立看護大学 大講義室（4階）
9：30～9：40	諸連絡	
9：40～11：20	ポスターセッション	沖縄県立看護大学 講義室3.4.5.6.7（2階）
11：20～11：30	移動	沖縄県立看護大学 大講義室（4階）
11：30～12：30	全体共有会	
12：30～13：00	閉会式（挨拶、写真撮影）	
13：00	解散	

2. 参加者の対象と推移



	2013：岩手	2014：兵庫	2015：名古屋	2016：北九州	2017：大阪	2018：静岡	2019：高知	2020：岡山	2021：岩手	2022：福知山	2023：沖縄
大学数	34	33	27	38	35	41	30	16	22	23	23
参加者数	81	104	93	119	141	179	141	61	132	83	96



3.活動内容とその成果

3.1 大会 1 日目

3.1.1　開会式　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 河本はるの】

◎概要
LINKtopos2023副代表の福知山公立大学冨江美有、沖縄県立芸術大学波多野泉学長、一般社団法人 公立大学協会事務局長 中田晃様の順番に挨拶を行なった。また、沖縄県立芸術大学の学生による三線演奏が行われた。
◎成果
円滑に進行することができた。

3.1.2　三線演奏　【LINKtopos2023現地運営 沖縄県立芸術大学 伊禮真実】

◎概要
沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の学生による演奏を行った。演者は三線2人、箏1人、笛1人の計4名。曲目は「かぎやで風」「てぃんさぐぬ花」「谷茶前節」の3曲。演奏前に演者による曲目解説や楽器紹介なども行い演奏した。

◎成果
開催地が沖縄という事もあり沖縄の文化や芸能の知識などを知るだけでなく、実際にどのような演奏なのか鑑賞を通して伝統芸能を肌で感じる事が出来たのではないかと思う。また、参加者の出身地とは異なる環境、演奏により日頃味わえない非日常的な時間を過ごせたのではないか。私含め演者による演奏表現を通し参加者を「うとぅいむち（おもてなし）」が出来た。

◎課題
演者との連絡をスムーズに行う為に企画側と演者での連絡も行う必要があったのではないかと思う。（連絡の経由が多かったように感じた為）
また、演者への依頼が早ければ三線演奏に舞踊など様々な演目を追加する事が出来たと考える為、案を増やすには早めの依頼が必要かと感じた。

3.1.3　アイスブレイク　【LINKtopos2023運営 岩手県立大学 國井大地】

◎概要
LINKtopos初日1番最初の企画であるため、参加者同士の交流が促進されることを目的とし、自己紹介と「ito」を行った。自己紹介では名前、大学、出身地、最近あったいいことを話してもらった。「ito」とは、数字が書いてあるカードを1人1枚引き、お題に対して自分が引いたカードの数字に値すると思うものを伝える。そして、数字が低いと思う人からカードを見せ、順番に並べられたらクリアという協力カードゲームである。

◎成果
ルール説明の際にデモンストレーションをしたことで、参加者がゲームのルールを理解しやすかったように思う。また、事前にアイスブレイク係以外の数人の運営学生とゲームを行っ

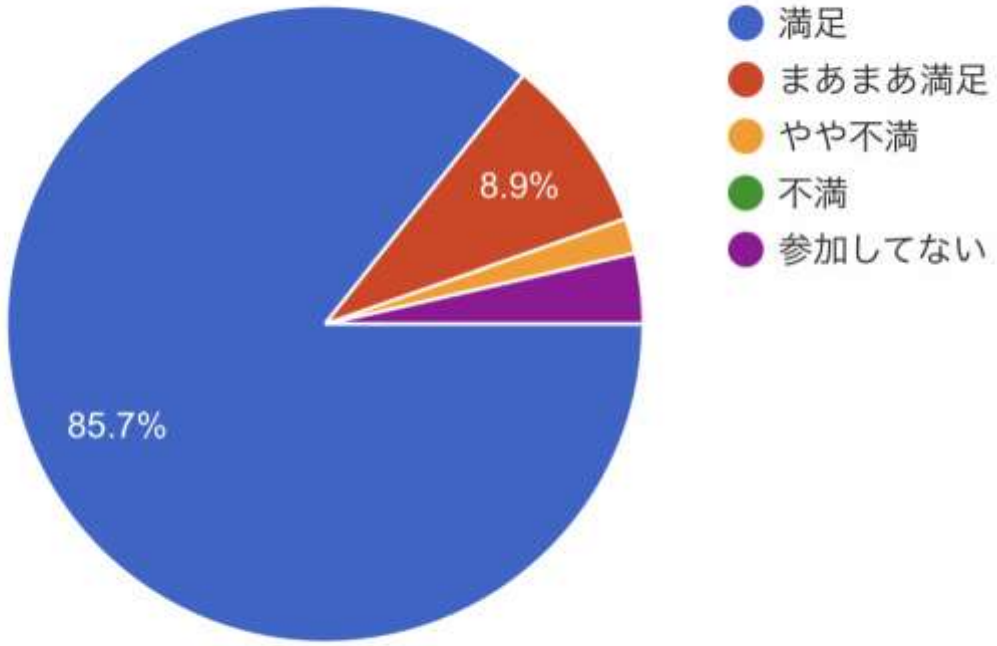
ていたため、各グループに1人は確実にルールを理解している人がいて、スムーズに進行することができた。自分の考えを伝え、みんなで話し合わなければならないゲームなので、必然的に会話が生まれ、それぞれの価値観を共有しながら参加者同士の距離が縮まっている様子が伺えた。

◎課題
全体的に考えたり話し合ったりする時間が短かった。また、欠席者が出たことで2人以上人数に差があるチームができてしまった。ゲーム内の話し合いに必要な時間は人数によって違ってくるが、欠席は当日まで予測不可能なので臨機応変な対応が必要である。写真撮影については撮影係もゲームに参加していたため、あまり写真を撮ることができなかった。係の人はゲームに参加しないか、アイスブレイクを担当している運営学生でも手が空いている人は写真撮影にまわるなど役割分担を明確にしておく。

3.1.3.1　アイスブレイク（満足度）事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2023運営 岩手県立大学 國井大地】

◎参加者の満足度



56人の回答のうち、満足と回答したのは48人、まあまあ満足と回答したのは5人、やや不満と回答したのは1人、参加していないと回答したのは2人という結果になった。

◎参加者の声
【満足】
・一気に仲が深まった気がしました。

・チームの結束力が高まり、緊張感から明るい雰囲気になったからです。
・ゲーム自体も非常に楽しく、街歩きにつながりました。
・楽しみながら全員発言して参加することができるゲームだった点が良かった。
・みんなが喋りやすいアイスブレイクで良かった。
・とても楽しく親睦を深めることができました。
・人それぞれ違った価値観が垣間見れたのが面白くて、距離が縮まったと思う。

【まあまあ満足】
・itoが想像以上に盛り上がった。学年が違うので距離を感じた。
・まずアイスブレイクの時間があってよかった。打ち解けられた。改善点自己紹介の時間が短い班もあった。

【やや不満】
・ito楽しかったけど、にしても短すぎた。30分でも早く集合して、その分アイスブレイク、自己紹介出来る時間を持った方がいいのではないかと思った。

3.1.4　まちあるき

【LINKtopos2023現地運営 沖縄県立看護大学 照屋友萌 西本有希 當眞未来】
◎概要
　まちあるきでは、実際に自分の足で歩き、目で見て体感してもらうことによって華やかな琉球王朝文化の遺産を数多く受け継ぎ王都として栄えた「首里」の魅力を知ってもらうことを第一の目的とした。そして全国から集まった学生の交流を図るとともに、得られた学びやつながりを2日目以降のワークショップなどに活かしていくことを最終的な目的とした。
　今回のまちあるきではグループ内交流を図るためにロゲイニングを実施した。ロゲイニングでは、コンパスだけを使用して運営から配布される地図をもとに各班で定められたスポットを目指し、最終的なポイントを競い合った。ロゲイニングスポットには、首里城第二の城門である「守礼門」や沖縄戦で使われた壕である「32軍司令部トーチカ跡」、世界遺産である「玉城朝薫(組踊の創始者)生誕の地」など沖縄県内の歴史深いロケーションを定めた。

◎成果
観光ではなかなか行かないような歴史的なスポットを入れたことで、初めて訪れた人だけでなく、沖縄に住んでいて馴染みのある人でも新たな発見がある楽しいまちあるきにすることができた。また、ロゲイニング形式にしたことによって、WS前にグループメンバーの仲を深め、団結力を高めることができた。

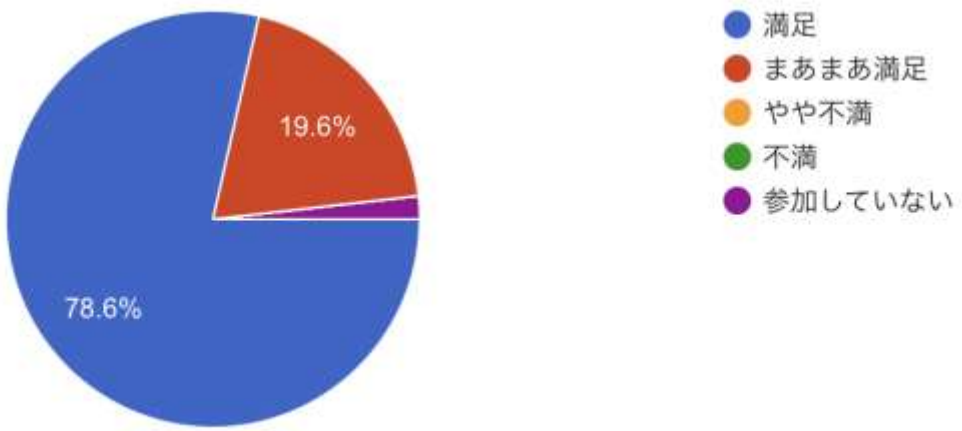
◎課題
　今回のまちあるきは、例年とは変わってロゲイニング方式で行った。そのため、地図を用いてのまちあるきであったが、その地図が不鮮明で見えづらかったのが課題としてあげられる。当日、紙媒体のみならずデータとして送るなどの対応はしていたが、やはりできる限り鮮明度をあげ、地図とコンパスのみで行くというロゲイニングを楽しめるようにするべきだと考える。また、休憩として活用できるカフェも資料として配布していたが、まちあるきを

行った当日が月曜日で、定休日のところがいくつかあったため、事前にカフェ名だけでなく、定休日も併せて記載するべきであった。集計方法の課題として、紙に書いて行ったため時間がかかったことあげられる。今後、ロゲイニング方式でまちあるきを行う際は、点数の合計作業にExcelを使用したり、正確に行うためにニ人１ペアになって集計を行うなどの改善をする必要がある。

3.1.4.1　まちあるき（満足度）事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2023現地運営 沖縄県立看護大学 照屋友萌 西本有希 當眞未来】

◎参加者の満足度



6人の回答のうち、満足と回答したのは44人、まあまあ満足と回答したのは11人、やや不満、不満ともに０人で、参加していないが１人という結果となった。

◎参加者の声

【満足】

・メンバーと協力しながら歩くことができて、交流を深められた。
・普段見ることのない沖縄の一面を知ることができました。
・楽しく首里の歴史や琉球の歴史を学ぶことができて印象に残りました。
・首里の町を交流しながらしっかりまわれたので良かった。ポイント制なので順位が競えて良かった。

【やや満足】

・ある程度街を知っている人が教えてくれたのがよかった。
・地図がわかりにくく、スマホを使ってしまう場面もあったので、そこは改善するべきかなと感じました。
・坂が多くて大変だったが、同じグループの人たちとお話ししながら沖縄の歴史や、地形について学べたことがとても良かった。

3.1.5　1日目総括　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 徳山光希】

1日目は、沖縄県立芸術大学を会場に、開会式とアイスブレイク、まちあるきが行われた。開会式では、挨拶の後、沖縄県立芸術大学の学生による三線演奏が行われた。アイスブレイクでは、自己紹介とitoを実施。最初はどのグループも緊張した様子で自己紹介をしていたが、itoが始まると、ゲームが進むにつれ空気が和らぎ、盛り上がっているようだった。まちあるきでは、1グループに1人は現地運営学生が入るようにグループを編成し、主に地図とコンパスを用いて、スポットや休憩場所を回り、首里のまちを歩いた。また、スポット等にはポイントが当てられており、獲得ポイントの高かったグループが景品を貰えるというゲーム要素もあった。アイスブレイク、まちあるき共にグループは、2日目に行われるWSのグループであったため、事前にメンバー同士、親睦を深めることができたのではないかと思う。三線演奏やまちあるきといった企画を通して、沖縄の文化を五感で感じる良い機会になった。

3.2 大会 2 日目

3.2.1　フリートーク　【LINKtopos2023運営 沖縄県立看護大学 金城凜花】

◎概要

参加者、運営学生は各グループに分かれ、自由に話し合ってもらう企画である。企画の目的は、交流を通して学生のネットワークの幅を広げることで、今後の活動に活かせる有意義な時間にすることであった。また、異なる地域に住む人達と交流し様々な意見や考えに触れることで、新たな発見や学びの場にし、LINKtoposの楽しい思い出を作ることも目的にしていた。企画内容は、１グループ３～５人でグループを編成し、運営学生も交えて自由に話し合う。自己紹介では「名前」「大学名」「どこのWSか」「LINKtopos参加理由」を言った後、「自分の大学のこと」「WSのこと」を中心に、各グループで自由に話した。会話に困った際のテーマとして「ご飯何食べた」「地元どこ？どんなところ？」「自分の宝物」「地域貢献活動のこと」などのテーマを前のスクリーンに投影した。

◎成果

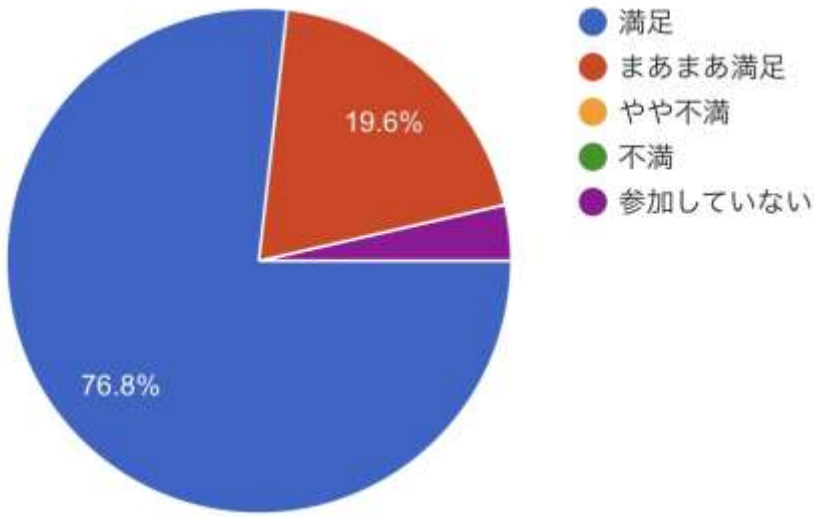
どのグループも盛り上がっている様子であった。トークの内容は自由にしていたが、話に困った時のために幾つか話題を提示していたことも成果に繋がっていると考える。WSの内容や地元のことなど様々な話が飛び交っていて、目的を達成出来たと考える。

◎課題

移動に時間がかかってしまったため、移動に関する分かりやすいスライドを作成し、スムーズに移動できるよう策を練る必要がある。また先生方と参加者も混ぜて企画を行うべきであったと反省している。

3.2.1.1　フリートーク（満足度）事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2023運営 沖縄県立看護大学 金城凜花】



56人回答のうち満足と回答したのは43人、まあまあ満足と回答したのは11人、やや不満、不満と回答した人は0人、参加していないと回答した人は2人という結果となった。

◎参加者の声

【満足】

・新しいメンバーで話せたのが良かった
・思ったよりも雑談だった。
・初めて会話した人たちでしたが盛り上がりました。
・様々な県の方とたくさんのお話ができてとても楽しかったです。
・ワークショップだけでは話すことの出来なかった新しい人たちと色々な話をすることが出来ました。
・新しい人とお題を通じて話すというアイディアに感動を覚えました。というのも、フリートークの大切さ、効果、タイミングなどの初めての学びを得たのでとても嬉しいです。
・それぞれの活動であったり、今回参加したきっかけなど知ることが出来た。 似ている活動をしている人もいて、お互いに活かせる部分がありがとう良かった。

【まあまあ満足】

・メンバーが面白かった。もっと長い交流でもよかった
・席替えがあったので色々な人と話すことができてとても良かったです。もう少し時間を設けて、もう一回席替えをしてももっと楽しめたかなと思いました。
・班交代を2回すると、交流時間が短くなるので1回でも充分だと感じた。
・もう少し話題の例が多くても良かったかなと思います。
・同じ大学や同じワークショップの子とグループが一緒になることが度々あったのが少しもったいなく感じた。

3.2.2　2日目総括　【LINKtopos2023運営 名古屋市立大学 古川晴紀】

今年度はWSを一日かけて行った。昨年とは違い二日間にわたって行うようなことはせず事前課題を的確に行うように指示をしてスムーズに活動できるようにした。一日目から交流を始めていたため話し合いなどもかなり序盤から積極的に行われており昼食もともにとるほど親睦度は高かった。全体としては昨年よりも交流の質がかなり向上したことが分かる。

WSではじっくり時間をとることができ体験型のWSや実際に専門家の方と意見を交わすなど昨年よりも充実した学びの時間が合ったと感じられる。運営学生も長い年月をかけて作り上げたものであるので、やりがいを強く感じている。個別の反省などはもちろんあるだろうが全体としては大成功と言っていいだろう。

フリートークは、自分のWS以外の人との交流を目指した。WSの後で疲れも見えたがご飯の話や自大学のことについて盛んに交流が行われていた。

統括として、会場が変わることを忘れていた人への対応ができていなかったが、メインである2日目では交流が積極的に行われるだけでなく、学びを確実に持ち帰ることができるレベルまで昇華できたため大成功であるといえる。

3.3　ワークショップ

3.3.1　テーマ①平和ってなんだろう？　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 荒川真七帆】

◎概要

戦争･平和をテーマに平和について考えるため、戦争について語り部からの講話、沖縄県平和祈念資料館の見学、調べ学習まとめを行った。

◎成果

講話では沖縄戦の流れ、沖縄戦当時の住民の暮らし、当時の住民の思い、戦争体験者から直接戦争について聞くチャンスがなくなりつつある事実などについて伺った。資料館の見学では実際に当時使われていた物や戦後70年を過ぎ、直接話を聞けなくなっている体験者の話を記した妙録などを実際の目で見ることで、戦争の悲惨さを疑似体験した。調べ学習とまとめでは①聞いたこと、見たこと、調べたこと②Iを受けての感想③平和とは何なのか④今自分たちが地域に帰ってできることという4点をグループに分かれてまとめ、成果物を作成した。

◎課題

戦争について学ぶということは長い時間の中で起きた国同士の衝突を学ぶということであって、背景や、内容が複雑になってくるため、6時間でまとめまで終えるには時間が足りていなかったように感じる。

3.3.1.1　講演会　【LINKtopos2023運営 三条市立大学 菊田大亮】

◎概要

沖縄県平和祈念資料館友の会事務局長仲村真様より戦時中の沖縄のお話や、第二次世界大戦後の沖縄の歴史や米軍と世界の関わりなどについてご講話していただいた。

◎成果
　参加者のアンケートからは「お話ししてくださった方がすごくいい話をしていた」、「戦争というものを多角的に見ることができた」といった声が上がり、運営学生から見ても良い学びの場となっていたと感じる。
◎課題
　大学と会場までの距離の問題でもあったとは思うが、もう少し講話の時間を伸ばし、より戦争や平和に関しての声を聞く機会を増やした方が良いと考える。

3.3.1.2　フィールドワーク（沖縄県平和祈念資料館）

【LINKtopos2023運営 岩手県立大学 及川駿斗】
◎概要
　沖縄県平和祈念資料館(以下資料館)の見学時間は11:15分から13:00までの105分行った。また、急遽講師の先生が資料館内の解説を行ってくれることとなり、解説に50分、自由見学が65分となった。

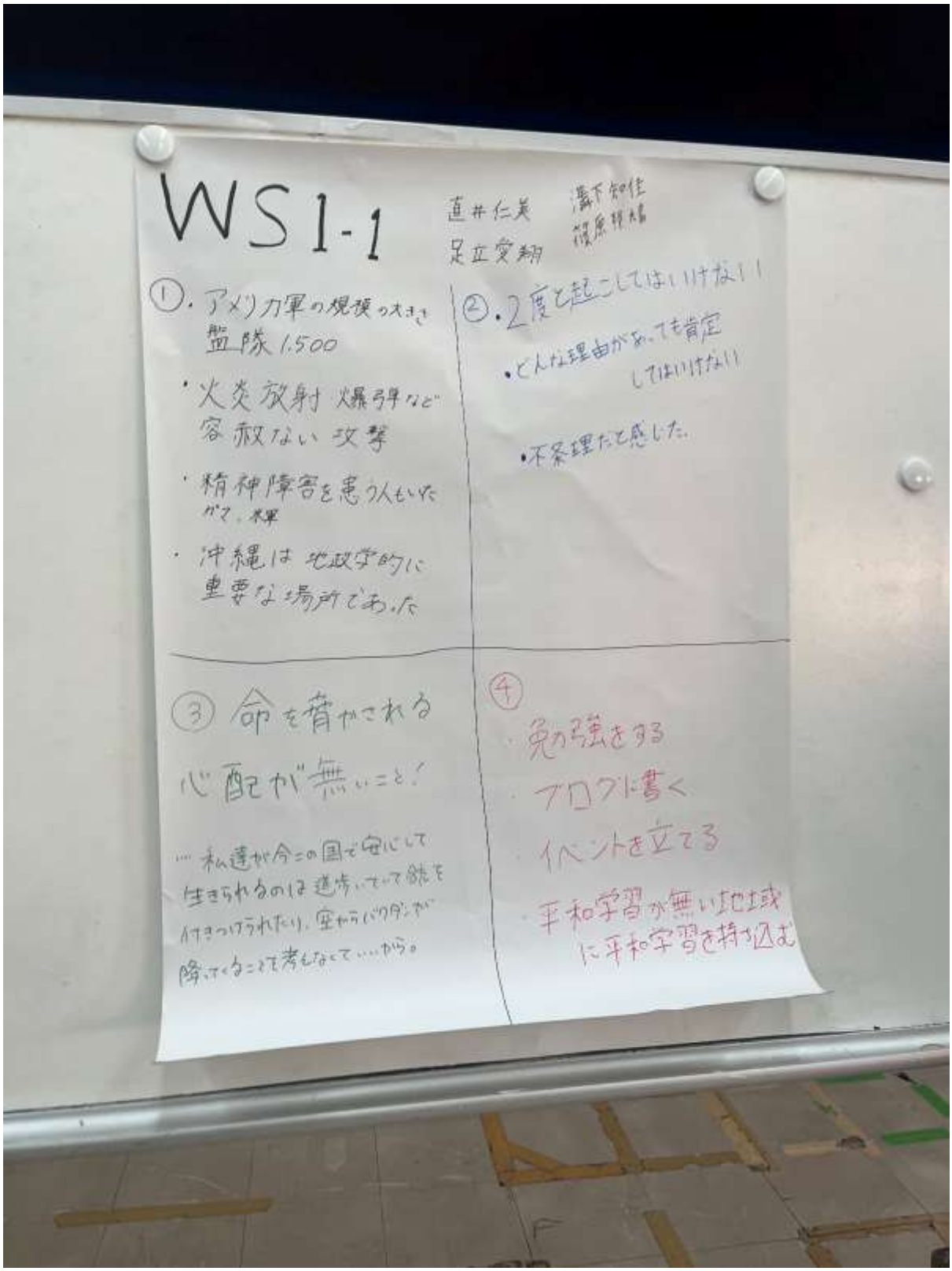
◎成果
　現地の方の解説があるだけで一つ一つの資料の重みが変わり、参加者の目や態度にも真剣さが現れていた。その後の成果物作成にもここでの学びが生かされていたので無理を押して見学しに行った価値はあったと感じた。

◎課題
　資料館に到着する前にバス酔いした参加者がおり、その対応を考えていなかったためそこが課題点と感じた。また、手続き上での不備が多く、先方や公立大学協会の方に迷惑をかけてしまった点も課題点である。

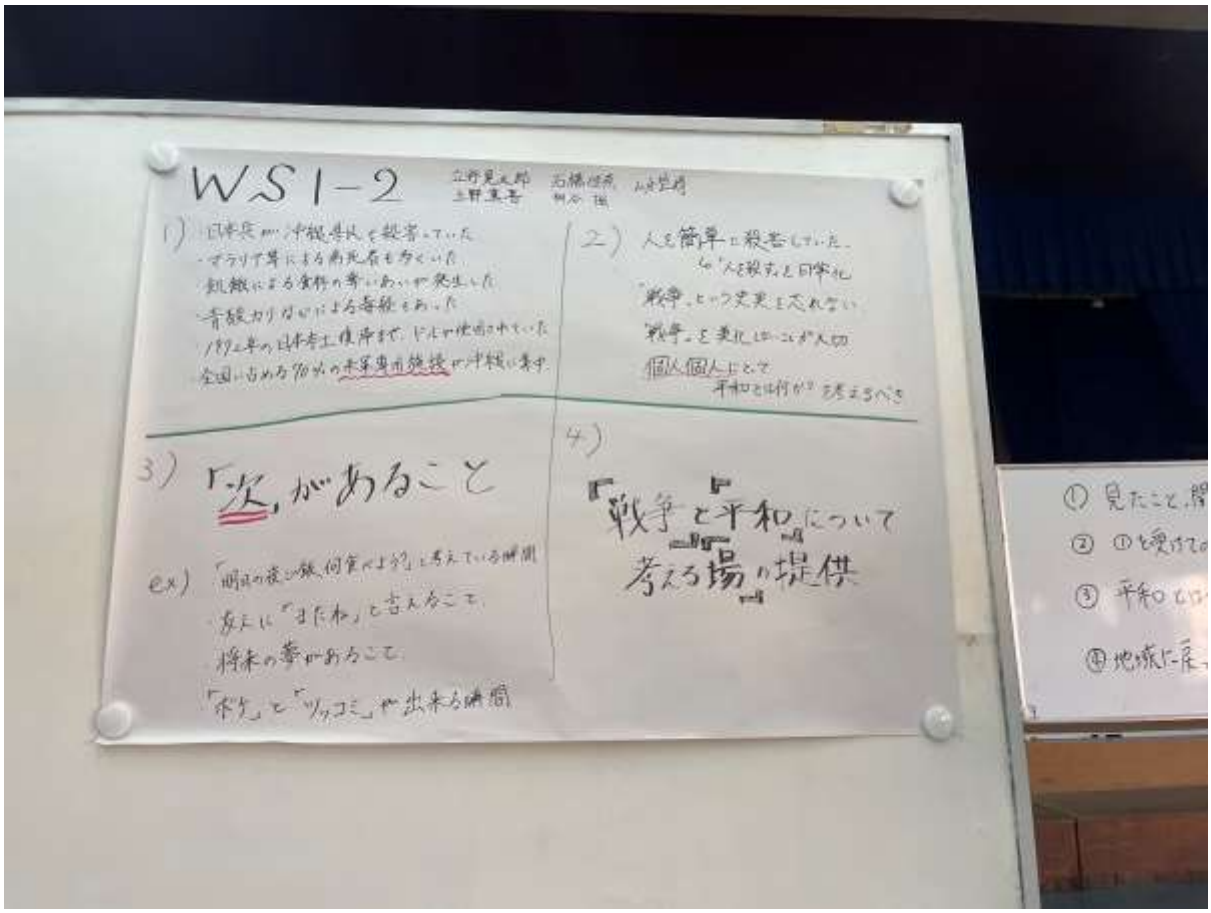
3.3.1.3　テーマ別共有会（作成物一覧）【LINKtopos2023運営 福知山公立大学 清水彩華】

◎概要
参加者の皆さんが、仲村真様からの貴重な講話や、平和祈念資料館に訪れ展示品や資料をみて感じたことや考えた事を各グループで共有し合い、改めて平和の大切さや戦争について学び考える機会にすることを最終的な目的とした。
◎成果
平和祈念資料館を通して平和について学び、何を思い・考えたのかを各グループで共有することが出来た。また、一人一人の考え方を否定せず各々が考える「平和の大切さ」や「平和」について色々な角度から学ぶことが出来たのではないかと考える。
◎課題
今回の課題は感想を共有し成果物にまとめるまでの時間が短かったことだと考える。タイムキーパーなどの役割分担を決めても時間が足りなかったので、次は作成物を作る時間を多めに用意したい。

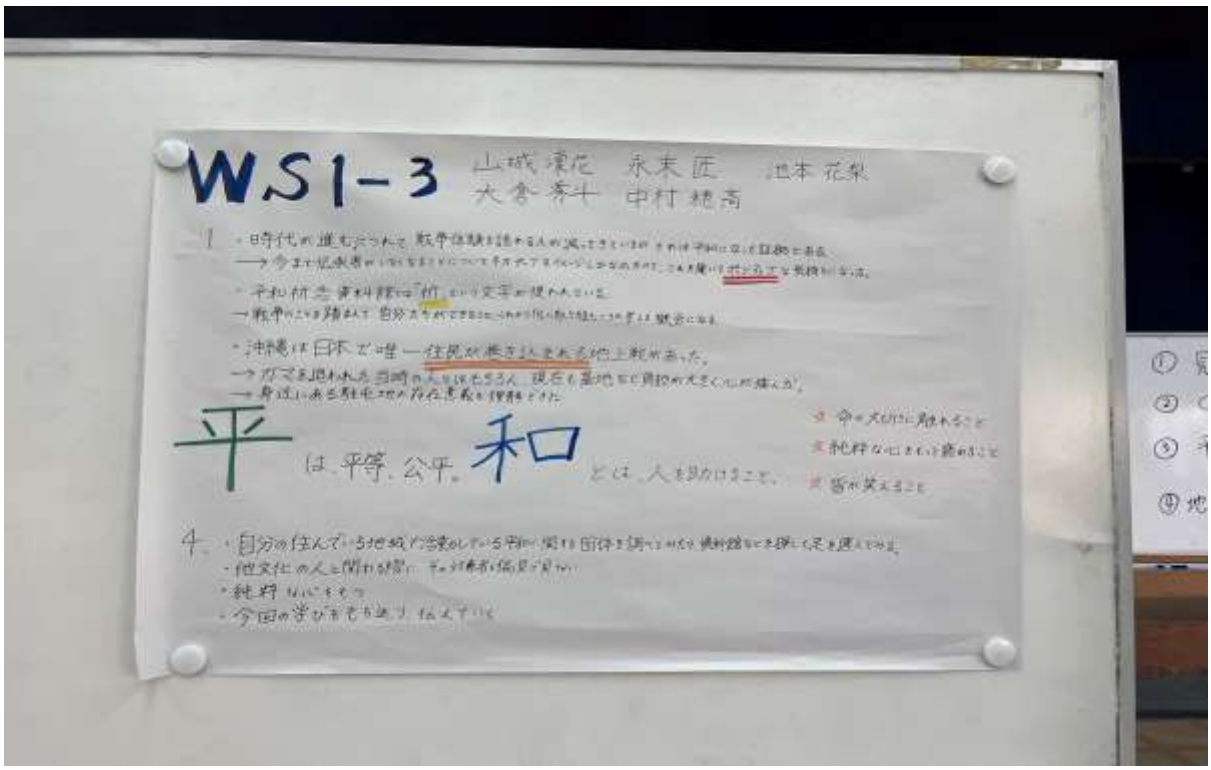
・成果物〈Iグループ〉


WS1-1
①・アメリカ軍の規模の大きさ
艦隊1,500
・火炎放射 爆弾など
容赦ない攻撃
・精神障害を患う人もいたが、終戦
・沖縄は地政学的に
重要な場所であった
②・2度と起こしてはいけない!
・どんな理由があっても肯定
してはいけない
・不条理だと感じた。
③ 命を脅かされる
心配が無いこと!
…私達が今この国で安心して
生きられるのは進歩していて銃を
付きつけられたり、空からバクダンが
降ってくることを考えなくて…から。
④
・免の強をする
・ブログに書く
・イベントを立てる
・平和学習が無い地域
に平和学習を持込む

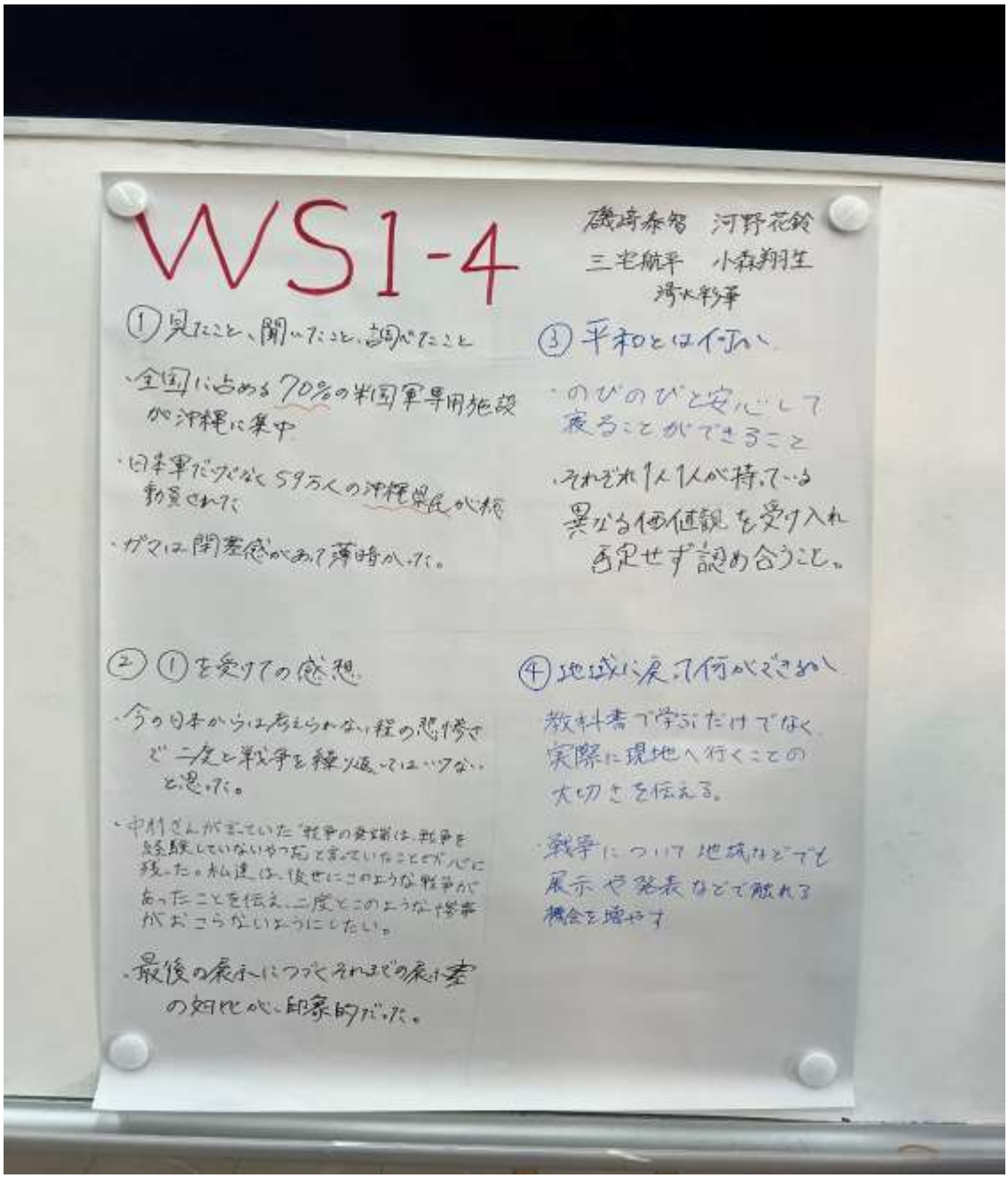
〈2グループ〉


WS1-2
2) 人を簡単に殺害していた
3) 「次」があること
ex) 「明日の夜に飲何食べよう」と考えている瞬間
友だちに「また会」と言えること
将来の夢があること
「外食」と「クチコミ」が出来る瞬間
4) 『戦争』と『平和』について
考える場の提供

〈3グループ〉

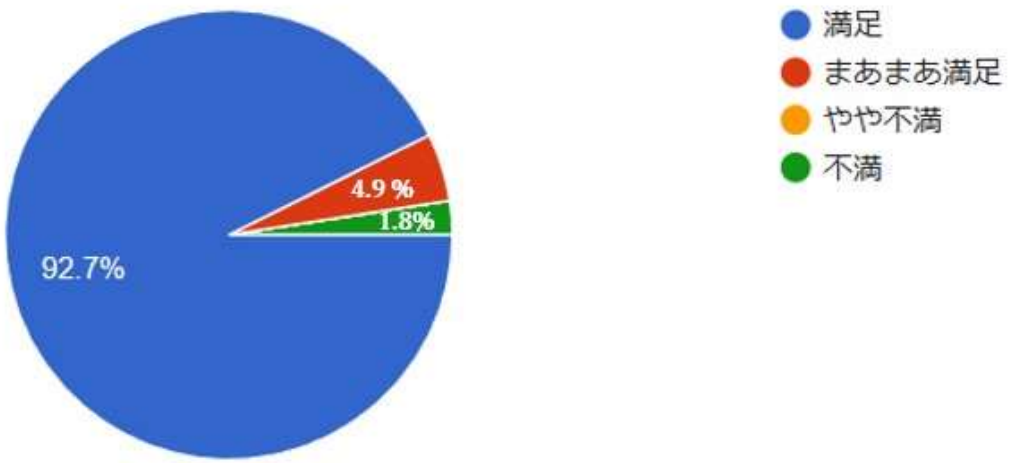

WS1-3
山城凜花 永末匠 辻本花梨
大倉孝斗 中村結南
平は、平等、公平。和とは、人を助けること。

〈4グループ〉


WS1-4
磯崎泰智　河野花鈴
三宅航平　小森翔生
湾水彩華
①見たこと、聞いたこと、調べたこと
・全国に占める70%の米国軍専用施設が沖縄に集中
・日本軍だけでなく59万人の沖縄県民が徴動員された
・ガマは閉塞感があって薄暗かった。
②①を受けての感想
・今の日本からは考えられない程の悲惨さで二度と戦争を繰り返してはいけないと思った。
・中村さんがおっていた"戦争の発端は、戦争を経験していないやつら"と言っていたことが心に残った。私達は、後世にこのような戦争があったことを伝え、二度とこのような惨事がおこらないようにしたい。
・最後の展示につくれまでの展示室の対比が、印象的だった。
③平和とは何か
・のびのびと安心して暮らすことができること
・それぞれ1人1人が持っている異なる価値観を受け入れ否定せず認め合うこと。
④地域に戻って何ができるか
教科書で学ぶだけでなく、実際に現地へ行くことの大切さを伝える。
・戦争について地域などでも展示や発表などで触れる機会を増やす

3.3.1.4　WS満足度/参加者の声　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 池本花梨】

◎参加者の満足度



41人の回答のうち、満足と回答したのは38人、まあまあ満足と回答したのは２人、不満と回答したのは１人という結果となった。

◎参加者の声

・小学生振りに平和についての学習ができ、良い機会になりました。平和記念公園はとてもきれいな場所でした。
・沖縄の戦争について教科書とは違った視点で詳しく学ぶことができたからです。
・「戦争」というものを多角的に見ることが出来、たくさんのことを学ぶことが出来ました。
・平和記念資料館で戦争と命について学び、肌で実感できた感覚があって良かった。この感覚が人として本当に大切なものだよなと感じた。
・資料館を見学できたのと友の会の方の話を聞けてとてもよかったです。広島、長崎とは違う目線で戦争・平和について考えられました。
・資料館での自由行動は班員と足並みを揃えるのではなく、ひとりで見て回りたかったです

3.3.2　テーマ②なぜ？どうして？みんなで考えよう、教育の課題！

【LINKtopos2023運営 名古屋市立大学 古川晴紀】

◎概要

　世間では多くの問題があるがその問題の現状を自分の手で調べ自分なりの原因を見つける。学生だけでなく、世間で言われている解決策が本当に効果があるものだろうかということを考え、机上の空論にならないために、資料を基に問題の原因を確実に抑える。今回は沖縄の教育問題について詳しい琉球大学の白尾先生、沖縄県立看護大学の鈴木先生をお招きし原因の探求をおこない、最後に好評をおこなうということで自分の地域に戻っても実践できるようにした。

◎成果

・体験型など人気なWSではなくこのWSを選んでくれた方ばかりなので事前学習を綿密に行っており最初から建設的な議論ができた。
・当初はゲストスピーカーの先生方の当日での対応が心配であったが学生からかなりの質問があり先生が暇を持て余すようなことがなかった。
・こちらの想像以上の意見が出たり、円滑な話し合いの進行が各班で行われていたこと
・本来はサポートに入る予定だった運営学生もいい意味で手が空いて話の中に入ることができたこと。

◎課題

・話し合いが盛り上がりすぎて本来の議題からそれてしまうこと（学びに関係ある話題）
・こちらの指示が伝わりにくかった。
・作成物作成に想像以上に時間がかかった。
・機械や共有方法でトラブルが起きたのでオープンチャットを作っておけば時間を有効にできた。
・発表や意見交流の時間がとれなかった。
・作成物の作成についてフォーマットをあらかじめ作っていれば良かった

議論は大変興味深く学びはかなり大きかったと思う。しかし、こちらの準備や時間配分をもう少し余裕をつくって意見交換の時間を作る。機械を用いる場合は共有しやすいようにオープンチャットを作成しておく。作成物のFMを作っておき、時間の目安をつくっておくようにして置けばさらに良くなると思う。

3.3.2.1　テーマ別報告会（成果物一覧）【LINKtopos2023運営 新見公立大学 徳山光希】

「テーマ②なぜ？どうして？みんなでたえよう、教育の課題！」では、配布した資料やデータ等を用い、沖縄の教育課題及びその要因は何かをまとめ、ドキュメント及びスライドで成果物を作成した。各グループの成果物は以下の写真の通りである。

〈グループ1〉
教育課題を「帰属意識の高さ」とし、産業の偏りや沖縄から出る人の人数に着目して、話し合いを進めた。

〈グループ3〉
教育課題を「教員不足」「教員一人当たりの生徒数が多い」こととし、少人数教育についてまとめ、教育への投資を提案した。

〈グループ4〉
教育課題を「貧困と教育との負の連鎖」「沖縄の文化/公務員志向」とし、時間の都合で、主に、貧困について取り上げていた。

〈グループ2〉

教育課題を「進学率の低さ」とし、周囲から受ける精神的な側面・地理的な側面・経済的な側面の3つの側面から考察した。

沖縄　教育問題

W2-2

課題『進学率が低い』40.2%（2019 琉球新報）。全国平均：56.6%（2022 内閣府）
その要因を考察したところ、3つの側面からの要因が浮かんだ

1　周囲から受ける精神的影響
→【仮説】身近な人から受ける影響が強い（友人・高校・親など）
◆小林によると、高校生の進路選択は学力など高校生本人の特性と家計所得など、家族の特性によって大きく規定されているだけでなく、家計の教育費負担能力や教育アスピレーションに大きく依存していると考えられる（小林 2007）

○【仮説】親に着目した場合、『親が進学に対して魅力をあまり感じていないのでは？』

◆教育アスピレーションについて（子供に進学をさせたいと思う気持ち）
→須永は親の教育アスピレーションや親の教育期待が子の教育達成に階層差が生じる原因であると指摘している（須永 2021）

◆進学に対して親子それぞれに行った調査で、「大学に進学する理由は何か」という質問に対しての回答（沖縄県 2017）
▽「就職に有利だから進学する」と回答した割合が子のほうが11%多い！
▽上位3項目は共通している「幅広い教養を身に着けたいから」「専門的な知識や技術を身に着けたいから」「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」
考察：①資格や技術が必要な職業に就くための手段として大学に進学することに価値を見出していることは親子間で共通している「専門的な～」「なりたい職業に就くための資格を～」
②専門職以外に就職する場合ではそこにずれが生じている。なりたい職業に直結するわけではない学部に進学する場合、マイナスな印象を抱いている親がいるのではないか。
結論：親が進学に対して魅力を感じていない場合、子の進学率に影響を与えるケースがある。

2　地理的影響
→◆沖縄県内に大学が少ない。
国立1・公立3・私立4(2021 47都道府県ランキング)
○特に専門性を求められる職種へ沖縄内で対応しづらい・県内で必要がない可能性。
→◆（島出身の人なら）教育を受けるためにそもそも移動する必要がある。
○沖縄県民はUターン率が高い60.4%(2023 地域ブランドNEWS)
→◆大企業が少ない。県内では観光業が盛んな為働き口に困らない。
第一次産業1.3% 第二次産業14.5% 第三次産業84.2%
(2019 沖縄県PREFECTURE)
○専門的な知識・技能がなくても挑戦することができる仕事が多い。
考察
初め、沖縄県民の大学進学率の低さには地理的要因(県内職の多様性が低い・県内大学で学べる選択肢の少なさ・県外への物理的距離が遠い点)により進学したくても決めきれない背景があるのではないかと考えていた。
しかしUターンしてくる割合の高さや地域企業の事業内容などから郷土愛の高さ、比較的挑戦のしやすい職業の多様性などからそもそも進学する必要性が高くないのではないかと考える。

解決策
より大きな働き口を生み出していく。
→◆沖縄県内により多くの大企業を招く、創立することにより県民に新たな選択肢を提案していく。

③経済的影響
→◆貧困率の高さ　なぜ　　平均所得が低いのに生活コストが割高だから
全国の賃金平均307万4000円
沖縄の賃金　　250万8000円（厚生労働省）

・都道府県別物価指数からみた沖縄県　総合指数（全国平均＝100）47都道府県中　27位　約９８ポイント

全国の子どもの相対的貧困率13.5パーセント
沖縄のこどもの相対的貧困率29.9パーセント（内閣府）
こどもの相対的貧困率・・・同じ国、地域の人と比べて収入や資産が少なく困窮した状態にある18歳未満の子どもの割合

しかし生活コストも割高→県産品を除く多くの商品が本土からの輸入品だから

所得が低いのに物価は高いから生活費だけでいっぱいいっぱい
沖縄県の消費指数の特徴　光熱・水道費、食費の指数が比較的高い
一方で、教育はとても低い

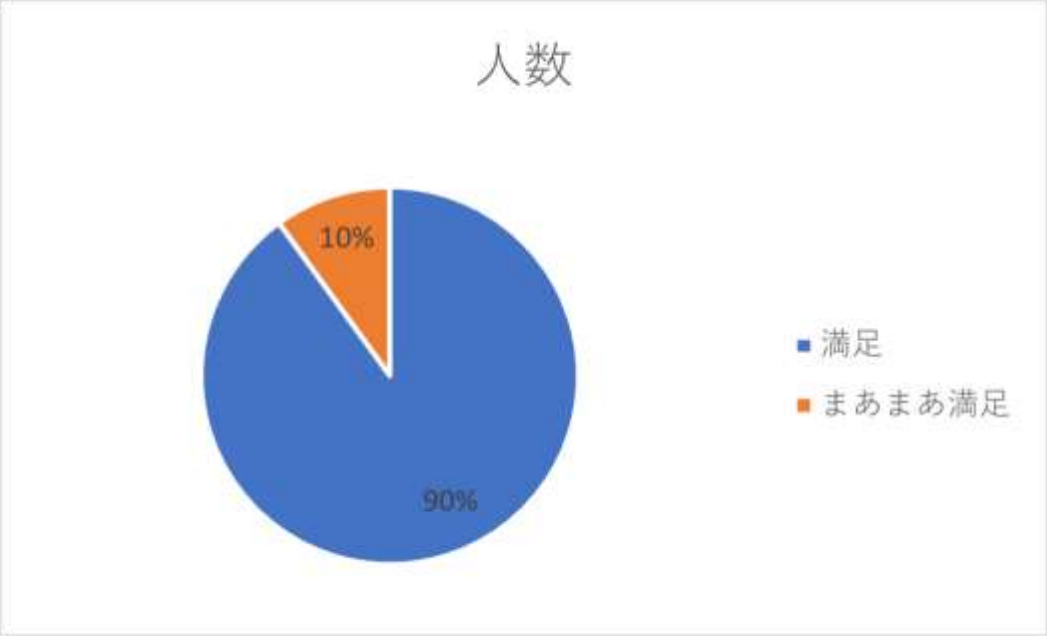
子どもの学業に費やすことのできる費用に限りがある→学費が払えない・通塾が難しいなどの問題が発生する可能性あり　奨学金を受け取ることのできる基準も厳しい（家計基準、成績）　子どもが学力を伸ばせる・伸ばしたいとおもう環境にない（自力で何とかするしかない）　　進学するより働いてお金を稼ぎたいと思う（働いて、自分のしたいことをして生活することを望む）

親が働きに出て遅くまで家にいない→子どもの勉強の意欲が上がらない・そのような家庭の子ども同士で遊ぶ→似たような家庭環境の子ども同士でネットワークを築く→進学のために勉強に取り組む・進学を果たしているモデルとなる人物が身近にいない→人生において進学することがすべてではない

【参考文献】
・内閣府,2021,『教育をめぐる状況』第1節　教育をめぐる状況 | 内閣府男女共同参画局 (gender.go.jp)
・琉球新報,2019,『沖縄、大学進学率初の40%越える　全国54%と依然、差大きい　高校は97%　学校基本調査』沖縄、大学進学率初の40%越える　全国54%と依然、差大きい　高校は97%　学校基本調査 - 琉球新報デジタル | 沖縄のニュース速報・情報サイト (ryukyushimpo.jp)
・内閣府,『沖縄県子どもの実態調査』
https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/kodomo-hinkon/shiryou/0522-1shiryou2.pdf
・厚生労働省,『都道府県別にみた賃金』
https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2021/dl/10.p

3.3.2.2　WS満足度/参加者の声　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 河本はるの】

◎参加者の満足度



10人の回答のうち、満足と回答した人は9人、まあまあ満足と回答したのは1人、やや不満、不満と回答したのは0人という結果となった。

◎参加者の声

【満足】

・多面的な視点から捉えることができ、自大学同士で話すよりもより多くの意見、解決策が出てきておもしろかった。より深く問題について考える機会になったと同時に、大会終了後に問題解決のために大学でできること、地域でできることについて考える機会になった。

・グループの他のメンバーは全員先輩で、すごく差を感じた。学ぶことが多く、自分がまだ未熟であることを感じたし、自分が普段面倒くさがって目を背けている部分についても知ることができた。

・ゲストとして来ていた大学などの先生方ともお話ししたり、実際に沖縄に住んでいる人から聞く話は目から鱗の情報ばかりで非常に興味深かったです！！

・非常に疲れました笑。ただ、それぞれの地域の教育課題や暮らし、文化、特性を知ることができて良い意見交換になりました。自分では分からなかったことを知れてよかったです。

【まあまあ満足】

・資料をもう少し偏りなく、また広く欲しかった

・発表資料の作成時間が短かったのでもう少し欲しかった。

・時間ギリギリでプレゼンを仕上げ終わったので、もう少し時間が欲しかったです。

3.3.3　テーマ③縁を繋ぐ～沖縄から地域の未来へ～

【LINKtopos2023運営 新見公立大学 難波朱華】

◎概要

沖縄の文化について沖縄県立芸術大学の講師の方から講演をしていただき、カチャーシーや組踊を体験した。沖縄の文化を肌で学んだ上で自分たちの地域に置ける伝統文化を評価し、比較することで大学生として自分たちの地域に活かせることを考えた。その後学んだ内容についてKJ法を用いてグループごとに整理した。整理した内容をもとに自分の地域の文化や産業等に対して、大学生として地域に活かし貢献出来るプランを考えポスターにまとめた。そしてグループ内で1人1人発表し、参加者それぞれの対策や考え方を共有した。

◎成果

話を聞くだけよりも実践的に学べたことで、より深い理解に繋がった。今回沖縄の文化として踊りを体験したが、比較する地域の文化が踊りじゃない参加者もKJ法を用いて沖縄の文化を整理したことで、比較するポイントが分かりやすく、考えやすくなった。さらに、午前(沖縄の文化)・午後(自分の地域の文化)というスケジュールで区切りをつけることで、それぞれの内容について混合することなく学び、考えることができた。比較するためにはまず自分の地域の文化について知る必要があるため、自分の地域についても理解を深める良いきっかけになった。参加者全員が沖縄の文化をもとに自分の地域の文化としっかり向き合ったことで、具体的なプランを作成することができた。

◎課題

「沖縄の文化を自分の地域に還元」という考えに囚われすぎていて、沖縄の参加者のことを考えられていなかった。今回短い時間でも参加者は充分なプランを作成してくれたが、事前課題を設けることで、より自分の地域について理解を深めることができたのではないか。想定していたよりも参加者がしっかり発表をしてくれたので結果的に発表時間が短くなってしまった。多めに発表時間を設定しておく。

3.3.3.1　講演会　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 難波朱華】

◎概要

沖縄県立芸術大学琉球舞踊コースの比嘉いずみ先生と嘉数道彦先生よりご講演をいただいた。比嘉いずみ先生にはカチャーシーを、嘉数道彦先生には組踊を体験とともに教えていただき、沖縄の文化や文化に対する考え方などを学んだ。

◎成果

その踊りの背景や意味を合わせて教えていただいたことでただ踊るだけではなく知識として身についた。沖縄の浴衣のようなものを着させていただいたり、みんなで輪になって踊ったり、沖縄でしか体験できないことが体験でき、参加者の楽しそうに学ぶ様子が見受けられた。

◎課題
会場設営について時間が足りず少々準備が疎かになってしまったので、講師の方と事前に話し合い当日の動きをスムーズにできればよかった。

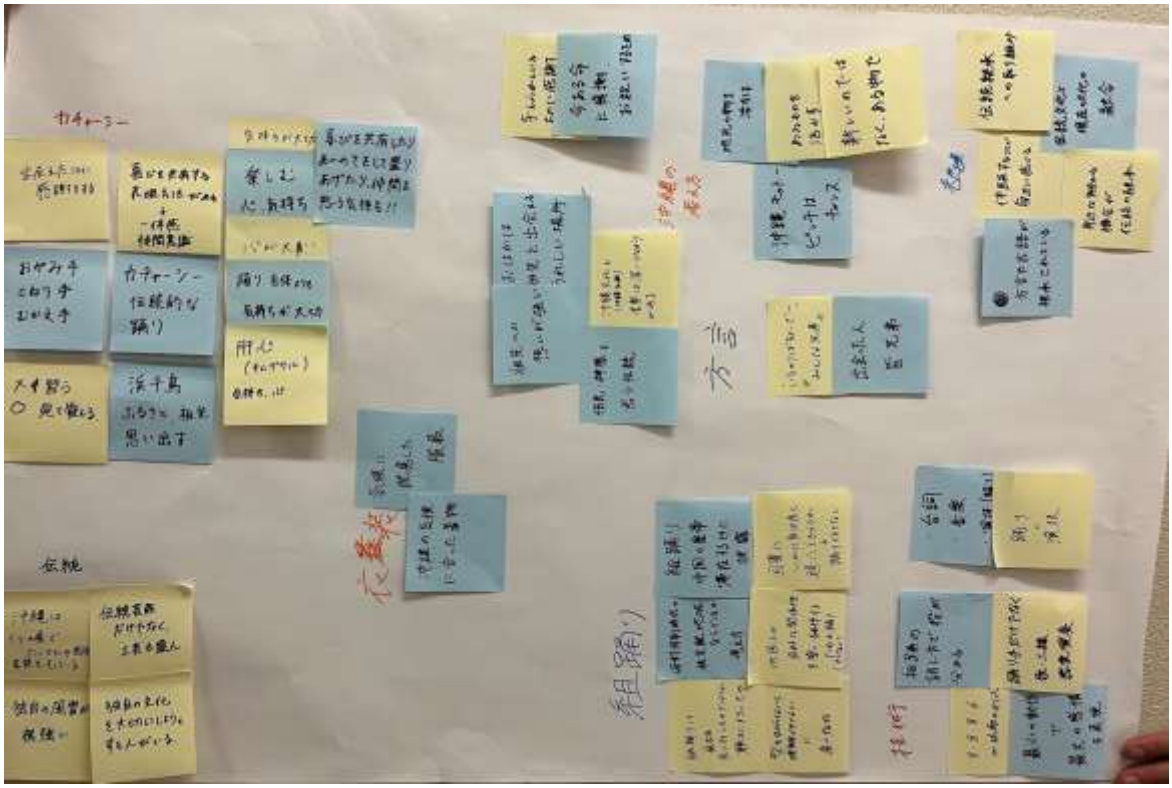
3.3.3.2　テーマ別報告会（成果物一覧）　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 小堀歩菜】

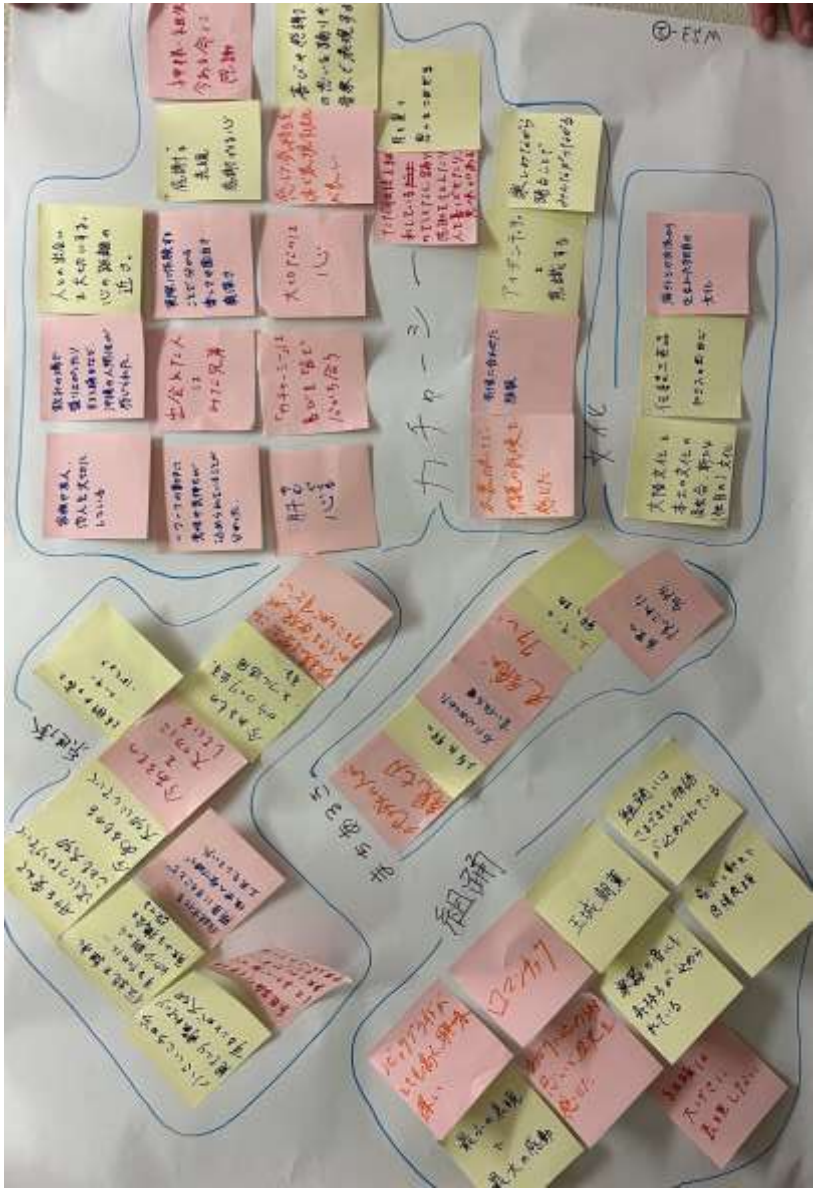
◎概要
　講話を通して学んだことを各自で付箋に書き出し、グループごとに模造紙にまとめた。(成果物①)さらに、沖縄の伝統文化と自分の地域を比較することで、自分の地域に活かせそうなことを考え、ポスターにまとめた。(成果物②)

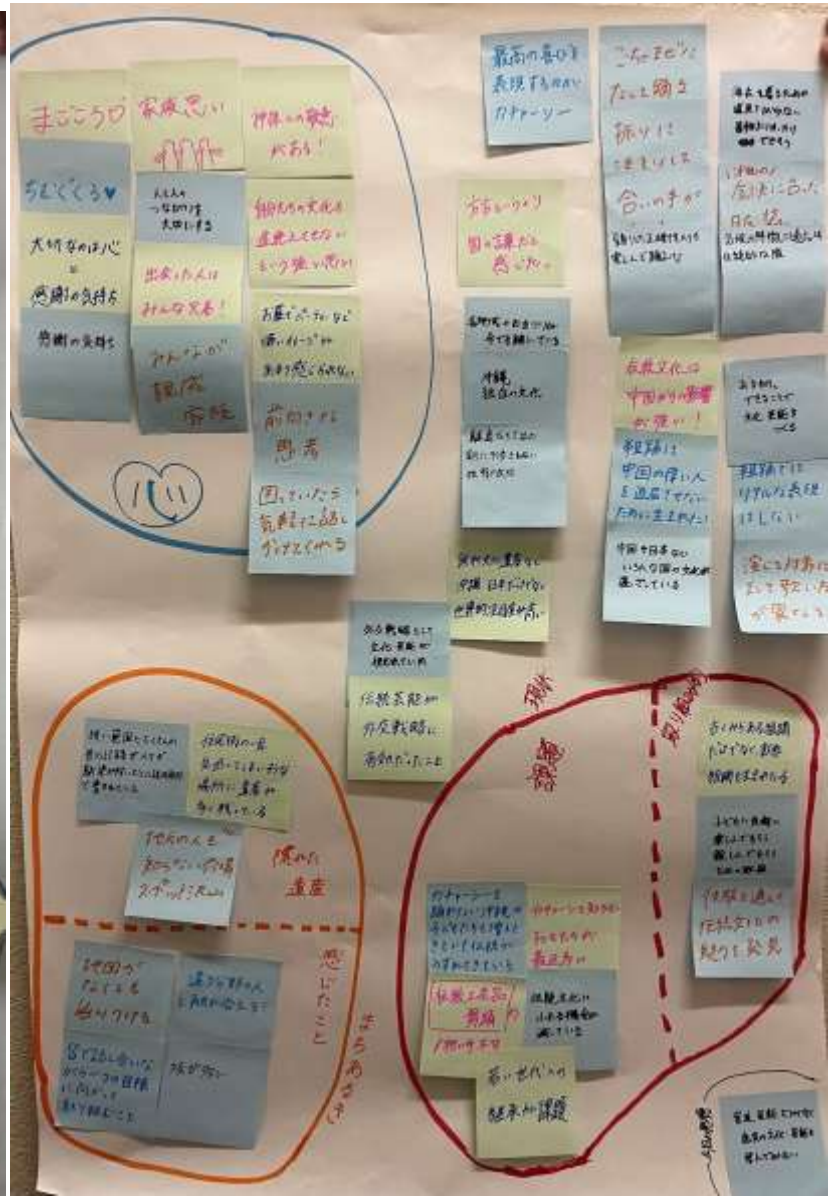
◎成果
　沖縄の伝統文化について学ぶだけでなく、自分たちの地域と比較して考えることで、自分たちの地域の伝統文化や産業について知るよい機会になったと考える。また、成果物の発表を通して、全国各地の伝統文化や産業についても知ることができ、参加者の考えを共有する場になったと考える。

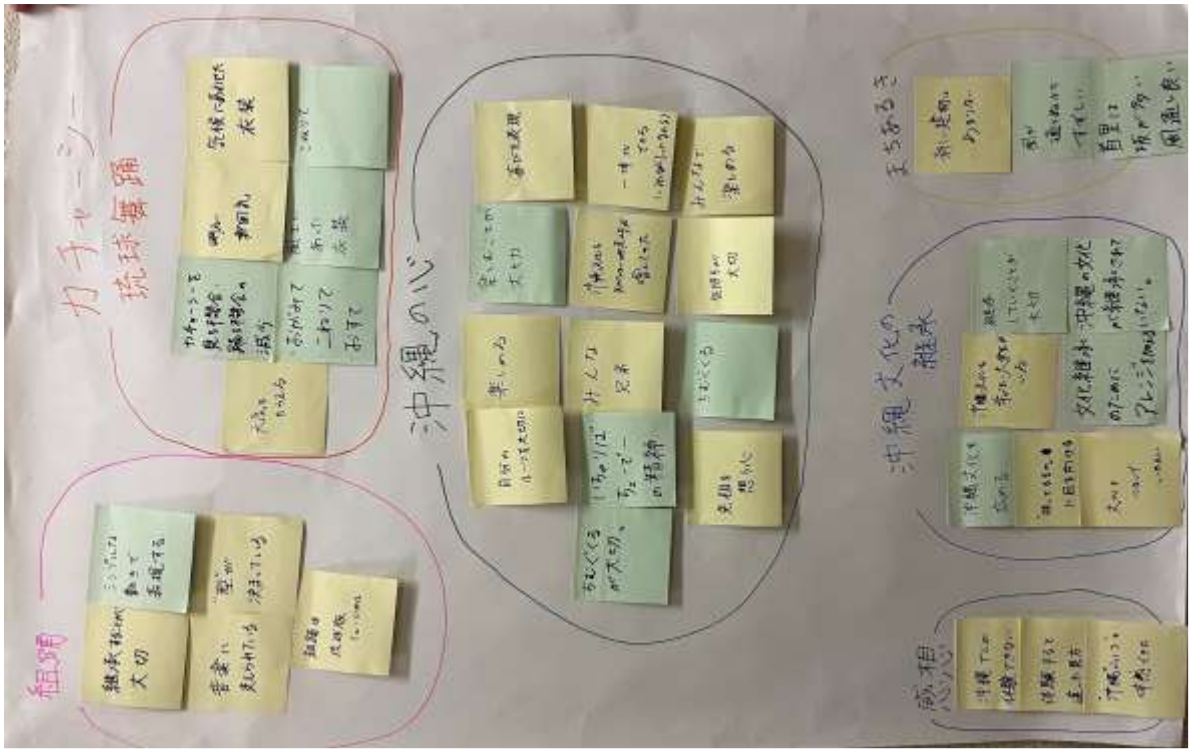
◎課題
　成果物共有の時間が短かったので、発表の時間をもう少し長くとるべきだった。また、沖縄と自分の地域を比べる時に、沖縄出身の人が困っていたので、その対応を考えておくべきだった。

・成果物①

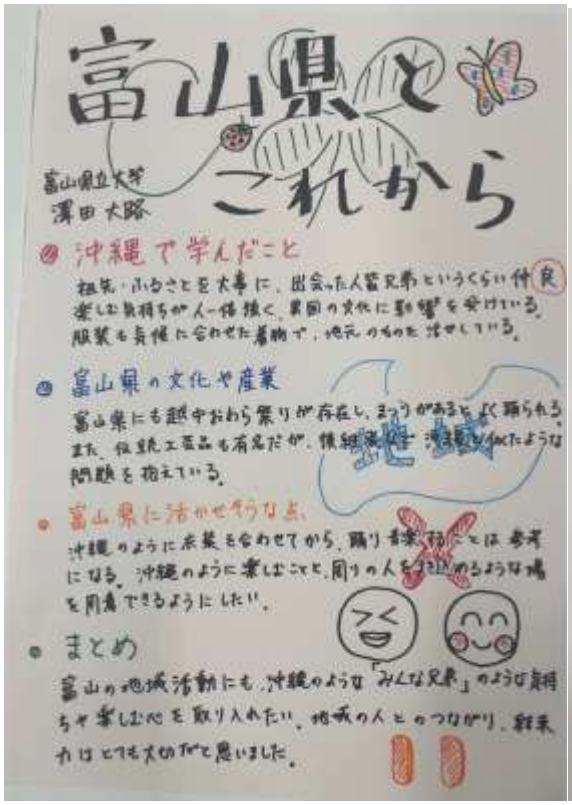


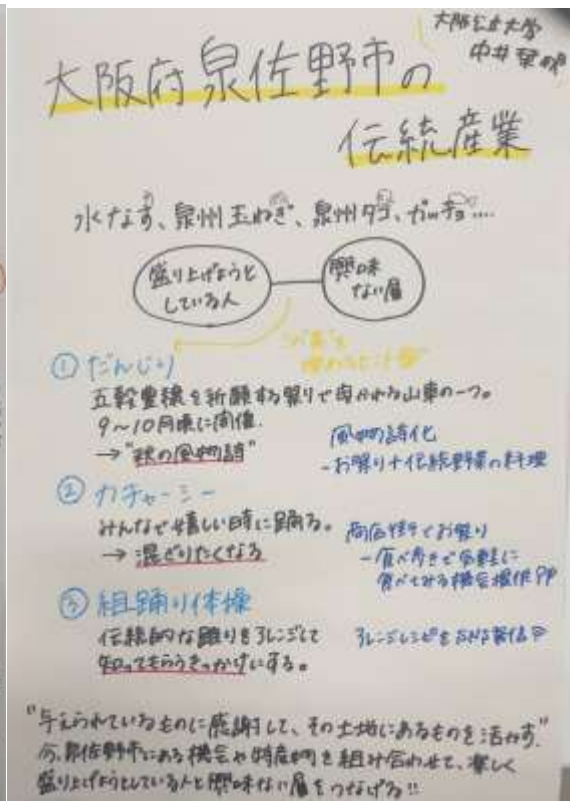

カチャーシー
ナイル
観光
ちゅうしょう
ユニカフ


まごころ
家族思い
沖縄への愛がある！
ちょくごくろ♥
大切なのは心
愛情の気持ち
愛情の気持ち
出会った人はみんな友達！
アットホームな雰囲気
前向きな思考
困っていたら気軽に話しかけてください
いい
最高の喜びを表現するのがカチャーシー
こんにちは
たくさん踊ろ
旅りに
合いの手が
沖縄の
伝統文化は中国からの影響が強い！
琉球は中国の使い人を直接してなかったから生まれた
琉球では
リアルな表現はしない
伝統芸能が外交戦略に活用されたこと
伝統の人と知らない人場スポットが多い
観光
遠座
感じたこと
まちあるき
残す
変える
古くからある建築
伝統文化の魅力に気づく
若い世代への継承が課題


カチャーシー
琉球舞踊
沖縄のハ
沖縄文化の継承
組踊

・成果物②


富山県とこれから
富山県立大学
濱田 大路
① 沖縄で学んだこと
② 富山県の文化や産業
富山県に活かせそうな点
まとめ


大阪公立大学
中井 栞帆
大阪府泉佐野市の
伝統産業
水なす、泉州玉ねぎ、泉州タオル、ガーデン…
盛り上げようとしている人
興味ない層
① だんじり
② カチャーシー
③ 組踊り体操

熊本の伝統文化

・沖縄で学んだこと ◎継承の方法！

宮殿文化である組踊りという若年層にとって少し興味を持ちにくい文化を、楽しい歌に合わせた体操に形を変えて継承しようとしている。

・熊本の文化 ◎流鏑馬（やぶさめ）

武田流騎射流鏑馬という文化がある。疾走する馬上から的に矢を当てるもので重要無形文化財。

・熊本に活かせそうな点 ◎文化に触れるきっかけ

武田流騎射流鏑馬は担い手不足が問題で、組踊りのようにその文化に触れるきっかけとなるような体験ができる場所を作ると良いと考える。

・まとめ ◎体験してみることが大切◎

沖縄の組踊りを継承するための取り組みから、伝統文化という少し難しく感じるものに触れるきっかけを作ることが画期的であると感じた。体験した踊りはとても楽しかった！

熊本県立大学　林 真理乃

高知の伝統芸能の今と

高知県立大学　麻岡 見優

・沖縄で学んだこと ～沖縄の伝統芸能～

- 伝統芸能を継承していくために学校や教育機関がある。
- 簡単に踊れる体操を考え、親しみやすくしている。
- 幼い頃から伝統芸能に触れる機会がある。
- 地域にとってその踊りを通してコミュニケーションがとれている。
- 学んでない踊りが浸透していて、継承していこうという気持ちがあるから教えてくれる人が身近にいて比較的学びやすいと思う。
- 多くの人がみんなで伝統芸能を守ろう継承しようと思っている。

高知のよさこい祭り と 沖縄の伝統芸能

共通点
- 音楽と衣装と踊りで魅せるもの
- みんなから愛されている

楽しむことが大切！

よさこい祭り
- 踊り子を持つ地方集合チームもあるあるは自由！

沖縄は自分自身ないと続きから外国人の沖縄チームがある。

よさこい祭りは大会

伝統芸能
- 踊り方が洗練されていて流派には違いがある。
- 曲は一緒で演奏の仕方が異なる

高知の踊りの音楽を指揮

まとめ

高知のよさこい祭りは正調を踊る子たちのパリパリ、「いけてアレンジするか」、みたいな音楽が近年よく見られる。

結論としては、アレンジも大事かもしれないが、元の踊りをきちんと踊ることをルールにしたり、祭り以外でも踊るときは正調にするなど、正調を大切にする風習をみんなで広めたい。

沖縄の伝統芸能と高知のよさこい祭りにこんなにも似た部分があるとは思ってなかったので、活動しているものの大切なポイントを「考えてみること」を大切にしたい。

知ってもらう、人の高知のよさこいスタイルも好きだったので、新たに沖縄の伝統芸能に触れたことも活かしたい。今あるものの基になったものを大切にすることがより一層、地域の伝統芸能を守り継承していくために必要なことであると気づくことができた。

福知山の伝統文化の今後

・福知山の伝統文化

- 丹後和紙
- 本藍染め
- 丹波漆

・沖縄での学び

- 組踊版「スイミー」
- 組踊り体操

衰退 ― 伝統文化＋現代文化

○学びの活かし方

- 伝統文化を現代の暮らしにアジャスト
- 若い世代が興味を持てるように

○まとめ

- 学生が技術者との架け橋に！
- 若者の代表は学生、まずは自分達が動く！

福知山公立大学　白井 穂人

沖縄県

伝統芸能・文化
↳ 各地域で根強い独自の風習

↓

県内に止まらない発信力

読谷村

やちむん・読谷山花織（ゆんだんざ はなうい）などの伝統工芸が盛ん。

↓ だけど…

技術者の高齢化が進む

原 技を習得するのに数十年かかる…。

・伝統芸能も盛ん　琴三線 太鼓

↳ 高校子ども クラブが活動中。

地域の先生方が毎週土日無料でレッスンしてくれる。

地域文化 担い手の下の

長野県の産業、伝統文化

〈沖縄について学んだこと・特徴〉

- 今あるものを大切にしている。
- 伝統文化を通して、神様や祖先、家族、今ある命に感謝を表している。（つながり）

〈長野県の文化〉

長野びんずる（長野市）

- シンボルの「善光寺」に祀られている「おびんずるさん」にちなんだ名称。

触れると病気・けががなおる？
「撫でる → 触れる → 市民のふれあい」

特徴

- 名物の「びんずる踊り」を通して地域の人々とのつながりを感じられる。
- 沖縄との共通点

課題

- 伝統文化を担う人材の育成を積極的に行っていない。
- お祭り全体としての賑わいはあるが、由来は普及していないイメージ。

〈活かせそうな点・まとめ〉（若者）

- 大学生などの街に馴染みがない人も巻き込んで、街をあるき学の親しみやすいような方法で文化を学ぶ機会を設け、地域全体で文化を継承していこうという風潮をつくる。
- 長野市は住民同士の結びつきが強い。

→びんずるを通して地域の結びつきを取り戻すきっかけにするためにも、まずは文化そのものを普及させるべきである。

福岡県の産業、伝統文化のこれから

- 沖縄県について学んだこと、特徴、特徴

人との絆を大切にすることで元の市の化。

距離の近さ

実感すること

今あるものを

SDGsにもつ

- 福岡県の文化や

山笠やどんたく

年に1度 福岡の

- 福岡県に活かせそうな点

年に1度開催して楽しめるもの。イベント

分かりやすくていいと思う。それに対して沖

音楽やこの沖縄なアとは「アカペラ」

「ミーサー」など、文化的なものを日常的に

いつ観光旅行に来ても沖縄音楽を味

こうした文化を取り入れて活かすことが

地域活性化にもつながっていく思う。

- まとめ

この企画を通して沖縄だけでなく地元の

ことでも高齢者などを見て改善できると

積極的に取り組んでいきたい。

北九州市立大学 地域創生学群 地域創生学類 浜崎 汰

○文化

福岡県北九州市に住んで、育ってきたが、方言、沖縄の踊りや、伝統芸能など、北九州にもあって、沖縄の方がどうのこうのが[illegible]明に強いと感じた。北九州も[illegible]沖縄も生活[illegible]ことがあります。地域に根ざしているもの。「地元」は[illegible]です。沖縄は「つなぐ」というキーワードを大切にしている[illegible]北九州との違いと感じました。北九州は、「観光客」に[illegible]向けていることがないので、伝統を大切にする意識は[illegible]薄いです。

○産業 活性化面

・北九州：北九州は、伝統文化に乏しい。なぜ、どうしたらよいか地域活性化よりも第一に考えるべきと思います。わかりやすい例で、地域化のための新しい産業技術の開発など、新開発、の例という面が強いイメージです。

・沖縄：観光客などとしていなかったが、[illegible]月の二日間、人々の情報しかない[illegible]としては、活性化さ[illegible]ほぼ高まりは感じない。文化の継承、伝承は地域が強いと思っている。

②キーワードは、[illegible]動けばもんぴりなどいろいろの、高齢の[illegible]と思います。→洋服工会場所との連携

沖縄県の産業、伝統文化のこれから

沖縄について

沖縄県には三線や民謡などの音楽、組踊やエイサー、琉球舞踊などの伝統芸能、やちむんや琉球ガラスといった伝統工芸品など、さまざまな文化が存在している。

いちゃりばちょーでー「一度会ったら兄弟」の心を大切に人間のつながりが強い。

沖縄の産業 伝統文化の課題

"伝統文化の担い手を次世代に継承する"

→若い世代が伝統文化に触れる

[illegible]ることが大切だと思う。

また、[illegible]

もたち[illegible]

中で沖[illegible]

をつく[illegible]

[illegible]世代間[illegible]

[illegible]流したり、多[illegible]

[illegible]は活動の[illegible]

[illegible]われる機会[illegible]

[illegible]いきたい。

島根県の産業・伝統文化のこれから

○沖縄について学んだこと、特徴

・家族・友人などに対して真心を持つなど、人との繋がりを大切にしている。それを踊りに込めることでより表現が伝わりやすくなっている。

・伝統文化を実際に体験することで分かるみ面白さや奥深さ

・伝統文化という難しさを感じるものに対して若者離れや後継者不足を改善するために、簡略化して親しみやすさを上げ、幼いころから根付かせるなどの工夫をしていた

○島根県の文化

「安来節」・「どじょうすくい踊り」

…島根県安来市の民謡。宴席でどじょうを掬う時の動きを面白おかしく踊る踊りが安来節のリズムによく合って広まった

○島根県に活かせそうな点

今ある問題点 → 後継者の育成問題

・組踊りであった組踊たいそうのように親しみやすい簡単な踊りをつくる。子どもに体験してもらう【幼少期・小学生対象】

・大学と連携し、体験やインターンシップを行い、将来の視野に入れてもらう。【青年層対象】

○まとめ

・伝統舞踊という点で沖縄と共通点があった。

・あまり地元の伝統文化を知らなかったので、その内容や問題に対して既に伸ばれている取組など知ることができた。

大学生としてできることを考えるのは難しかったが、沖縄で学んだことを活かした解決策を考えることができた。

名塩和紙の課題とこれから

▷名塩和紙とは

・兵庫県西宮市の北部に位置する名塩地区で作られる手漉き和紙

・400年以上の歴史があり、尾形光琳などの巨匠も使用していた

・時間の経過による変色がない

▷名塩和紙の課題

・製紙場の減少

紙漉き和紙：400軒以上　現在：2軒のみ

・後継者不足　・認知度が低い

▷沖縄における伝統の継承について学んだこと、特徴

・幼少期から伝統に触れる機会を設けている

・伝統文化を簡略化することで、体験するハードルを下げている

・伝統文化を学ぶことができる場を設けている

・既存の形にとらわれず、新しく変えていくことも大切

▷名塩和紙のこれから

・2月開催のしるしーとハートなどで「名塩和紙フェア」として市内の百貨店や商業施設で販売

→市民の目につくようにする

・小中学校で名塩和紙を学ぶ、和紙作りを体験する機会を設ける。

伝統文化を継承していくために

今日学んだ沖縄の伝統文化

琉球歌劇ミュージカル

喜びを分かち合う カチャーシー　自由に　組踊

中国

ちむどくる　いちゃりばちょーでー　組踊誕生の歴史

真心　肝心　語尾

課題

知らない子供や踊れない子供が増えてきている…

子どもへ「組踊たいそう」などで文化の発信をしている!

まとめ

沖縄独自の伝統や文化を知らない子ども達が増えてきている。小さい頃から触れることで子供にとって馴染みのある存在にすることが沖縄の個性豊かな伝統を守り継いでいくことに繋がると感じた。

私たちができること

・サークル活動などで文化の歴史や方言の意味を小・中学生に教えたりする

・ラジオ体操を組踊たいそうに!

興味を持ってもらう きっかけを増やす!

本土の伝統文化・茶道と沖縄の伝統文化

自分のかがりを作 振返る

大阪公立大学2年 福留 花萌

●沖縄について学んだこと・特徴

心を大切にする

・中国や日本の文化が混ざった文化である

・若い世代が文化に触れる機会が減っている

●茶道について

・中国由来の文化

・昔は花嫁修業として茶道が必須だったが、今はそうではない

「嫁入り」という文化が時代に合わない、男尊女卑の考え

「和敬清寂」「一期一会」「侘び寂び」など心を大切にする

課題

・敷居が高いと思われがち

・茶道に触れる機会がない

・負担に感じないルール(ルール、作法)

活かせる点

・作法を楽しく学べるミニ講座

・組踊たいそうのような、取り組みやすいところからハードルを下げたやり方の考案

茶道の例：座ってできる立礼席

●まとめ

・生活様式の変化により、伝統文化は存続の危機に立たされている

・負担にならず楽しく学べるやり方を考え、特に若い世代に普及させていく

・茶道は全国の学校で部活として体験できる場がある。茶道部員として、その場を上手く活用する方法を模索したい。

沖縄(okinawa) × 福井(fukui)

学び

- 踊りの上手さではなく気持ちを大切にする
- 決まった型はなく楽しく自由に踊る
- 体験を通して伝統に興味を持つきっかけに

福井の文化

- 伝統工芸品
  ①越前漆器 ②越前和紙 ③若狭めのう細工 ④若狭塗 ⑤越前打刃物 ⑥越前焼 ⑦越前箪笥
- 伝統芸能
  → 伝統芸能を全国にあわらす 伝統芸能新世代コンクール

活かせるところ

- 幼い頃に体験した伝統文化をその後も活かせる環境を作る
  → 大学のカリキュラムなど
- 体験できる場の提供
  → 誰かと教え合う 楽しく学ぶ

まとめ

- 地元の人の"残したい""伝えたい"という想い
  → まずはそこにいる人が誇りに思う
- まず興味を持ってもらうための工夫
  → 体験、イベント
- 発信力
  → 観光地としての高い知名度を活かして"伝統"分野にも興味をもってもらえる工夫が必要

感想

- 前向きに考える
- 地元に対する愛情を語りがすごい
- 踊りが苦手でも楽しめた

香川県の産業，伝統文化のこれから

- 沖縄について学んだことと特徴
  - 若い世代への伝統文化の継承が課題。
    → 体験を通して伝統文化の楽しさを学んで担い手を増やそうとしている。
  - 農作物の豊作や成果を願う文化がある。
    → 伝統的な踊りにつながって今でも継承されている。
- 香川県の文化や産業
  - 1番有名であるうどんにかを入れているが若い世代に継承されてない。
  - 昔から日照りによる水不足に悩まされていて雨乞い踊りができた。
- 香川県に活かせそうな点
  沖縄県は伝統文化などの観光資源が豊富あり旅行の時にたくさんの観光地があるが香川県にはうどん以外で言うと一気に知名度が下がってしまうので知られてない資源を有効活用したい。
- まとめ
  香川県では沖縄の伝統文化の楽しさを学んでもらうのと同じように、小学生の頃に授業の一環としてうどん作りをしています。しかし、2番手、3番手の伝統文化を授業で取り入れていないため県外だけではなく県内の人にも知られていない現状。このことから、まずは県内の人に知ってもらうために、イベントなどをすべきだと思いました。

岡 日那汰

清水焼(京都) と 沖縄文化(おきなわ) ～伝統文化の継承～

<清水焼ミュージアム>と日本 佐藤 裕紀

◎ 沖縄について学んだこと・特徴

- 日常の中に伝統文化(カチャーシーなど)が溶け込んでいる。
- 「沖縄らしさが□□」が都合いい、多くのことが言えてしまう。
- その文化にも"人"がいて、人が重要なポイントになっている。
- 若い世代への文化の継承や課題となっている。
  明確な答えが出ない課題や解決策がない工夫がされている。

◎ 清水焼(京都の文化)について

- 京都の代表的な陶磁器だが、他県や和歌山は△
- 特に若い人はなじみ作家さんごとに個性が出る。
- 担い手(職人)減少傾向。他分野へ移ってしまう人も。
- 第1回の陶器祭りがある！ 地元の人などが体験できます。

◎ 活かせそうなこと(使えそうなこと)

- 清水焼の魅力は安心感・愛着が持てる。
  → 日常の中に清水焼の"おいしくなる使い方"提案やおもてなし伝統文化を地域に活かせることができる！
- 清水焼は無塗・まるごと"ハンドメイド"
  → 小中高で"つくる"体験の場
  清水焼の技術を利用した"新しい日用品"

☆ まとめ

- 伝統産業を高い沖縄のカチャーシーなど、や自分たちの伝統文化の魅力を伝えるために、まずは知ってもらうために、学校などで授業を通して知ってもらうアプローチ。

沖縄と北九州 くらべてみたら

◦WSでの学び・気づき

人

- ちむくくるニまごころ
- 家族思いで人を人とのつながりを大事にする
  → 出会った人はみんな親戚・家族
- 神様への敬意がある

伝統

- カチャーシー
  → 最高の喜びを表現
- 組踊
  → 中国との外交が目的
- 服装
  → 気候に合わせた独自の着方

◦課題

- 文化を知らない子どもが多くなっている
- 伝統文化の担い手不足

◦取り組み

- 組踊を組踊体操として小さい子たちも簡単に伝統にふれられるようにした。
- 体験活動を増やす

北九州市

- 伝統文化・小倉織
- 課題 あまり身近ではない 担い手不足

→ 活かせる所

- 小倉織を使った子どもに身近な商品を産み出す
- 小倉織体験

まとめ 今日のWSで沖縄の人たちの考え方や伝統文化を学んだことを考えた時に感じたまちの人の温かさや独特な文化の理由が分かった。また、船の大事にいる沖縄の人たちは暴風雨を作るなど同じ所で育ったというだけで強い絆を感じていたので、沖縄の人の人とのつながりへの思いの強さが

新見公立大学 中澤光咲

兵庫県の伝統文化のこれから

今日学んだ沖縄文化
- カチャーシー
- 琉球舞踊
- 組踊

沖縄文化から学んだこと・感じたこと
- 沖縄ならではの精神（いちゃりばちょーでー、なくくる）
- みんなで楽しめるものが多い
- 文化を学ぶことで、その地域をもっと好きになれる

兵庫県の伝統文化 伝統的な産業
- ざんざか踊り
- 播州そろばん
- 姫路独楽
- ペーロン

現状
- どういう文化なのか詳しく知られていない
- 若い世代への継承ができていない

現状を変えるために↓

＋

沖縄文化から活かせそうなこと
- 組踊体操（子どもでもできる）
- みんなで楽しめること
- 繋がる という精神

大学生の私たちに何ができそうか？
- 踊りなどの文化は、子どもが分かりやすい言葉で表しながら一緒にやる
- 伝統工芸品を活用したイベント（ものづくりワークショップなど）
- YouTubeやSNSによる発信
- 踊りの練習と一緒に、文化について説明する時間を設ける
- みんなで文化をどうすれば繋いでいけるかワークショップで話し合う

【まとめ】
沖縄の文化は多くの人に愛され、継承されてきたものなんだなと今日1日を通して感じた。自分の地元の文化について知らないことが多かったため、もっと自分から知ろうとする姿勢を持つべきだと思った。

地域のお祭りを繋ぐ

～沖縄（琉球）と大阪府・交野市（かたの）で～

大阪公立大学・1回生 中井春一良（なかいはるいら）

沖縄の伝統文化である カチャーシーや組踊は…
1. 沖縄ならではのユニークさがある（衣装・踊りの型）
2. 踊りを通じて気持ちの面でつながれる
3. 継承がうまくいかず、大学生や体験によって何とか継承・繋げるという特徴がある

沖縄の「らしさ」を活かした文化の継承を目指す動きを大阪府・交野市でもできないか考える。

大阪府交野市の「交野市（かたのし）立交野節（かたのぶし）」という古くからある盆踊りがある。この踊りを未来へ繋ぎたい！

特徴
- 踊りの型
- 今は誰もわからない…
- 守り、つなげようとしている人がいる

★交野でできそうなこと
1. 地域自治体での盆踊りに「交野節」を導入する
2. 保育園や子ども食堂などの場で「交野節」を踊る時間を作る
3. 小・中学生で「交野節」・交野市に関する歴史について学ぶ時間をもう
4. 「交野節」をSNSで発信！

※「交野節」→カチャーシー、組踊の型を参考

沖縄も大阪も共通の課題をもっているので、協力して育てていくことで地域への貢献に！

沖縄の伝統文化

沖縄県立芸術大学 3年 儀間かのん

学んだこと・伝統文化の特徴
- 沖縄の文化には、貧しさを乗りこえるために「もっているもの」に目を向けて発展させてきた文化がある。
- 琉球舞踊には、先祖を想う気持ちを込めていたり、カチャーシーでは1度出会った人とは兄弟のようにごちゃまぜになって踊るなど、目には見えない心のつながりが大切になっている。

気がついた点、考えた事
- 観光客のために伝統芸能を披露するだけでは、本来の意味や込められた想いは届かないのではないか。
- 伝統文化が発展してきた背景には、人々の心のつながりや豊作の祈りなどがあり、形だけ見せるのではなく、深いところも知ってほしい。
- 伝統文化は「その地域だけのもの」なのが、
- 他の地域の伝統文化も表現する「形」は違うけど、根底にある意味は似てる。

伝統文化を継承するために、
- 20代くらいの若い人に興味をもってもらえる、
  ↳ 流行を取り入れる。
- 伝統文化を学ぶ入り口を広くして、深く学べる場所に気軽に行けたらいい。

まとめ
伝統文化は、それぞれ違うけど、共通のものを持っていると思った。だから伝統文化を大切にしつつ、新しいものを取り入れて、みんなで楽しめるものが大事。

沖縄の伝統文化と福知山のこれから

福知山公立大 2年 北田真歌

- 沖縄について学んだこと
  - 琉球舞踊の体験を通して、文化の発信を行う
  - 文化の継承のため、工夫をこらして入りやすい雰囲気に（組踊体操）
  - 「沖縄の心」を大切にしている（いちゃりばちょーでー、ちむぐくる）
  - 「楽しむ」を大切にしている。
  - 若者が文化を学べる場所がある
- 沖縄の特徴
  1. 人と人との距離が近い
  2. 陽気な雰囲気
  3. 郷土愛がある
  4. 沖縄心を大切にする
- 福知山の伝統文化・産業
  - ドッコイセ踊り
  - 丹後和紙
  - 由良藍（本藍染）
  - 丹波漆

  ↳ 抱える課題・現状
  - 後継者不足
  - 認知度の低下
  - 入りにくさ
- 沖縄から福知山で活かせる点・アイデア
  - 実際に体験してもらうことで、知ってもらう
  - 時代や世代に合った工夫を加えて、入りやすい雰囲気づくりをする
  - みんなで楽しみ、交流できる場を暮らしの中につくる
  - 郷土愛をより深めるイベントの実施
  - 地域をあげた文化のPR
  - 高校や大学で文化を学べる専門的な学部の設置

⇒ 文化に触れて、学ぶことができる場の増加が大切

沖縄の産業・文化のこれから

名桜大学　金城 望愛

学んだこと

- 沖縄には1000を超える独特な文化がある
- 沖縄の文化は、気候や風土、中国、米軍から影響
- 琉球の心「ちむぐくる」「いちゃりばちょーでー」
- 琉球文化が継承されず、廃れてきている
- 琉球文化継承のため、工夫を行い、模索中

琉球文化継承のためのアイディア

- 小・中・高で「琉球文化」という授業の設置
  → 「琉球の歴史、しまくとぅば、芸能、工芸品…」を学ぶ
- 学校で琉球文化に触れられる部活やサークルを作る
- 沖縄は観光産業が盛んなので、琉球文化を取り入れた観光を増やす。その際、流行に合わせてアレンジ
  → 琉装で街歩き体験、伝統芸能と流行音楽をMIX

⇒若い世代への継承、他地域への伝承につなげる

ちょうさ祭りを永遠に

○沖縄で学んだこと

- 正月や御盆などの一つ一つに伝統的意味がある。
- 居酒屋や街を歩くだけで、いつでも伝統文化に触れられる環境がある。
- 文化継承の課題に、大学を中心とした様々な[illegible]対策をしている。

○地元、香川県観音寺市について

- 香川県最西端の小さな町
- 年に一度のちょうさ祭り（五色台産業と豊浜の対抗）が有名！
- 5mの山車を100人程度でかつぎ、練り歩く
  but 祭りの担い手、かつぎ手不足が著しい

○沖縄から学ぶかもしれないポイント

- 伝統文化に込められた意味を伝えること
- 日常的に文化に触れられる環境づくり

○まとめ

沖縄はまち中に文化があふれており、常にアイデンティティを感じられる環境であることが地元への大きな違いに感じた。私は大学で地域文化や産業を活かしたイノベーション企業をつくることで地域の持続性を高めることを学んでいる。この学びと今回の沖縄での経験を通し、地域の企業やお店が文化を継承[illegible]る役割りをはたせるのではないかと考えた。そのために私たち学生や若者は、まちの外から働きにくる人々と地域の地元民をつなぐ（コミュニティづくり）を行っていきたい。

日常的に　関係人口

福岡山公立大学　大野 秀典

岡山県

新見市の伝統文化のこれから

新見公立大学　古林 夏歩

○沖縄について学んだこと、特徴

- 組踊りなど伝統的なものが多い。
- 振り付けや表現にも意味がある。
  - 出会った日から「きょうだい」
  - 伝統を後世に残したいという思いが強い。

○新見市の伝統行事

- 「文下座祭り」などの行事が多く存在する。
  → 地域の小学生も郷土芸能を行っている。
- 蛇神楽、白いごもり祭などの奇祭も多くある。

○新見市の伝統行事を守るには…？

- 少子高齢化が進んでいるため、世代に受け継ぐことが難しくなっている
- 伝統行事について知っている人が減少している。

子どもに伝統文化を分かりやすく伝える

○まとめ

沖縄では伝統行事を「たいせつ」という形で子どもたちにも分かりやすいようになっている。後世に残していくためには、子どもと伝統行事を触れやすいようにすることが必要だと思える。大学で「文下座祭り」に参加するなどのことは現在行われているため、それを活かし、大学生が子どもに分かりやすく伝えていくための行動が必要である。

「南薩摩の十五夜行事」を未来へ

桜吉 心桜

○南薩摩の十五夜行事について

- 鹿児島県薩摩半島南西部を中心に行われている
- 毎年9月中旬に開催されており、綱引きや相撲をとる。
- 国の無形民俗文化財に指定されている

○南薩摩の十五夜行事の課題

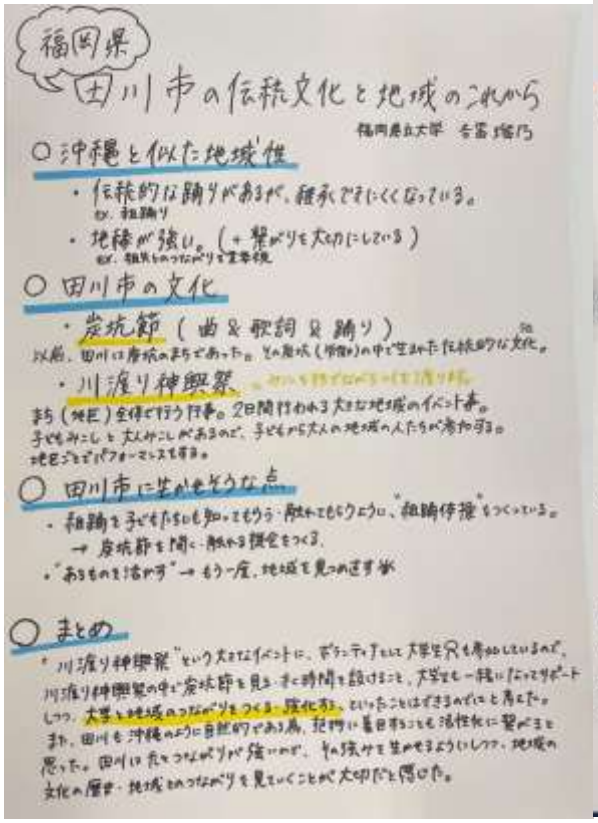
- 歴史的・文化的な価値に対する理解が若い世代を中心に乏しくなってきている
  → 行事に参加する意欲や意識が低くなってしまう

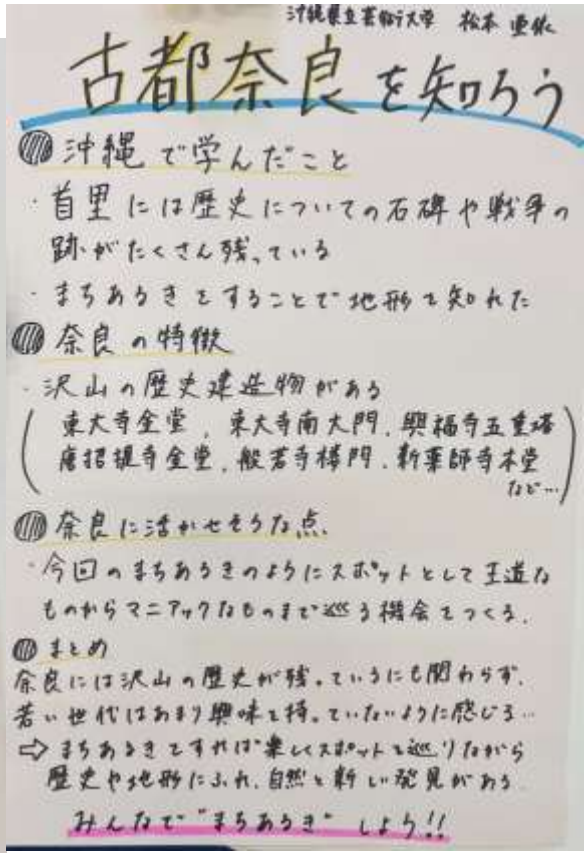
○沖縄の伝統について学んだこと

- 1つ1つの動作の意味を理解してから踊ると気持ちを込めて踊ることができる
- 組踊り体験のようにまずは親しみやすくするためのものを作るのも大切

○まとめ

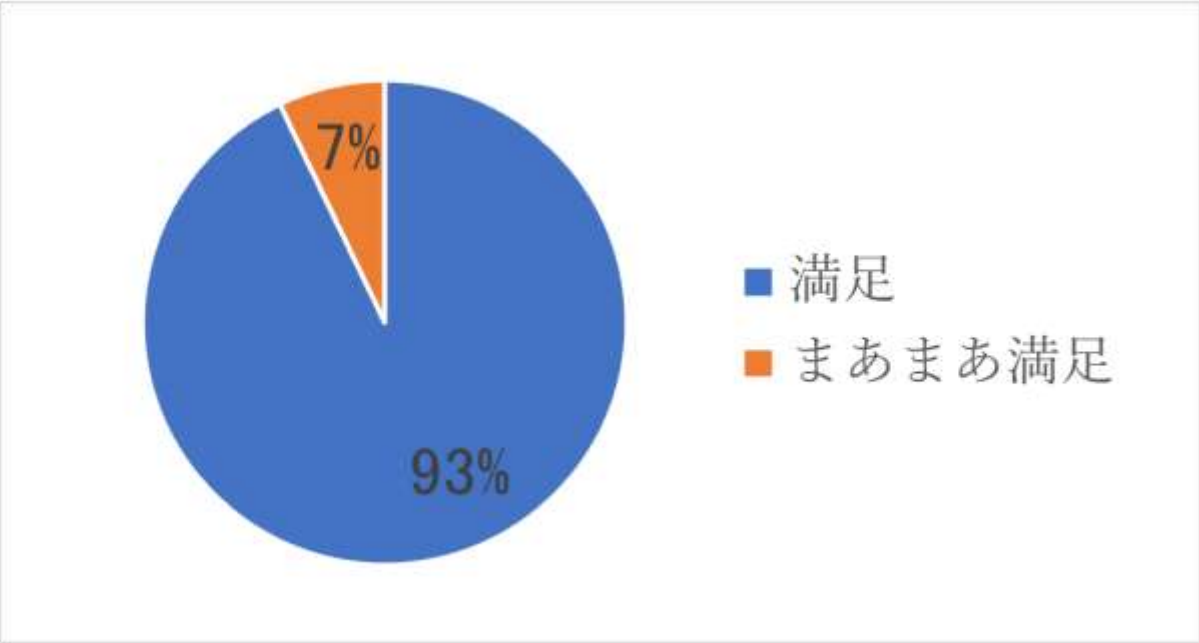
私は今回沖縄の伝統を体験し学んだことで、理解することや親しみやすいことの大切さを実際に感じることができた。これらのことを踏まえ、有志の大学生や20代の若い世代が自分たちの住まいの文化を学ぶ機会をつくり、学んだことを小中学生にワークショップなどを通して説明する機会を作ることが幅広い世代に理解してもらえる方法ではないかと考える。





3.3.3.3 WS満足度/参加者の声 【LINKtopos2023運営 新見公立大学 小堀歩菜】

◎参加者の満足度



28人の回答のうち、満足と回答したのは26人、まあまあ満足と回答したのは2人、やや不満、不満と回答したのは0人という結果になった。

◎参加者の声
・沖縄の伝統文化を直接体験できて良かった。
・伝統舞踊が今に伝わる心を知ることができた。
・講演と体験が交互だったので、あまり眠くならずに集中して話を聞くことができた。
・成果物作成では自分の地域の伝統文化、産業について知るよい機会になったし、その発表を通して、グループのメンバーたちから多くの刺激を受けた。
・自分たちの地域と沖縄を比べてみんなに発表するのは、地域を見直すきっかけになっえ良かった。
・もっと言語の歴史や文化の現状の課題について知ることができるとより楽しそう。
・共有の時間が全然足りなかったので、時間の配分を明確にするか時間を延ばせば、より良い時間を過ごせるかなと感じた。
・ポスターづくりの中で、沖縄出身だったので少し手こずった。

3.4 大会 3 日目

3.4.1 ポスターセッション 【LINKtopos2023運営 兵庫県立大学 田尻翔吾】

◎概要

今大会では、最終日午前にポスターを掲示し、担当者による７分間の説明の後、５分間の質疑応答を実施した。
質疑応答や感想の共有に関しては付箋を用い、後日回答する形式をとったが、質疑応答の時間中に直接担当者が回答する事例もあった。
テーマを各自・各団体で普段行っている活動や研究、また、その中での課題点とし、計16大学19団体が参加した。

◎成果

全国の公立大学生がどのような活動をしており、どのような悩みを抱えているのかを共有できたことにより、課題解決策を提案し合うといったことが発生していた。

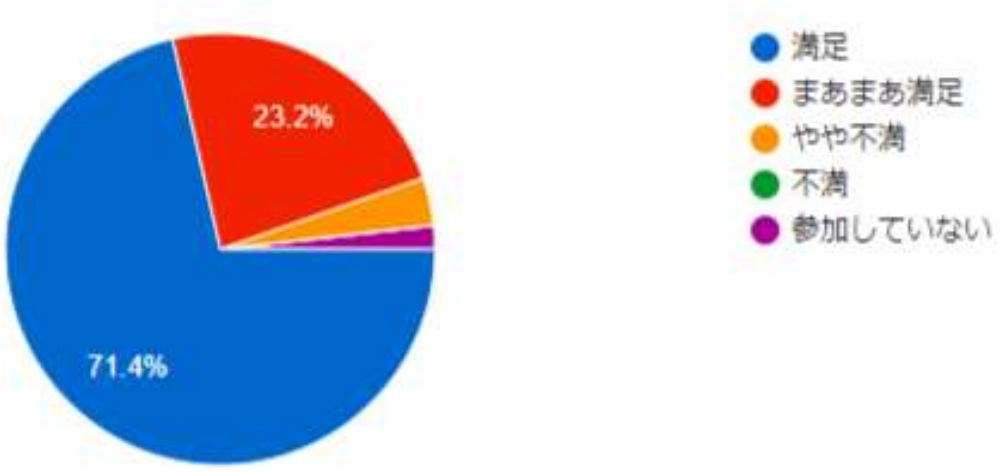
◎課題

今大会では開催地が沖縄県下の２大学に分かれていた関係上、ポスターが最終日のみの掲示となってしまい、ゆとりをもってポスターを見る時間を用意できなかった。
また、部屋によって聴取者の数にばらつきがあった事、一部屋で複数の発表団体があった事は課題であった。

3.4.1.1　ポスターセッション（満足度）事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2023運営 岩手県立大学 及川駿斗】

◎参加者の満足度



56人の回答のうち、満足と回答したのは40人、まあまあ満足と回答したのは13人、やや不満と回答したのは2人、参加していないと回答したのは1人という結果となった。

◎参加者の声

【満足】

・発表を通して、他大学との協力や地域の子どもへのアプローチとしての宿題教室など、多くのことを学ぶことができた点。

・色々な大学の意見を聞けて良かった。

・ふせんでアドバイス、感想を書くアイデアは良かった。

【まあまあ満足】

・場所によって人のばらつきがあるため、奥の方の教室は人が少なく、手前は人が多かったため。セッション自体は色々な意見を聞くことができ楽しかった。

・ポスターセッションでは各団体や大学の特色や、活動を意識高く発表できていたので良かったと思います。一つの部屋に多くの人が集まるとそこに密集してしまいがちなので、大部屋で一つに集合させて発表させるのも良いかなと思いました。

・新たにいろんな学生団体を知ることができた。

【やや不満】

・自由に見る形式だと誰も見にこなかった発表のところはどうすれば良いのか、と思った。また、発表者は他の発表を見に行く余裕がないのが残念だった。他大学の取り組みを知る機会なので、発表者でも他大学の取り組みを見に行く余裕が欲しかった。

3.4.2　全体共有会　【LINKtopos2023運営 名古屋市立大学 伴有真】

◎概要

　３日間のLINKtoposでの活動をふりかえり

①自分の個性や強みとして気が付いたこと

②自分の地域の強みや特徴として気が付いたこと

③自分の地域をよりよくするために考えたこと　の３点について各自で考え、ワークシートにまとめた。また、LINKtoposに参加していない周りの人に向けての学びの共有についても考え、行動宣言もした。それぞれ2日目のフリートーク1回目のグループで内容共有をし、お互いを励ました。

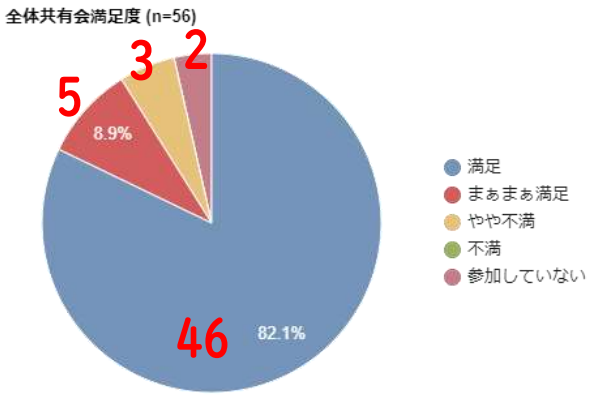
◎成果
・フリートークのグループで交流することにより、フリートークのグループにおいても深い交流を行うことができた。フリートークの時間で地元の事など話していたことにより、短時間でも内容を理解することができた。
・参加者が学んだことを言語化し振り返ることで、参加者自身で学んだことを理解することができた。これからの活動をもっと頑張ろうと思うきっかけにすることができた。
・司会進行のどの意見も否定せず、肯定して受け取ろうという提起もあり、発言する側も自信を持って発言できる雰囲気をつくることができた。
・交流することで参加者同士の新たな長所や学びに気づくことができたり、お互いに頑張ろうという気持ちになることができた。

◎課題
・異なるワークショップに参加した人で交流したほうが新たな気付きを得やすいだろうと考え、２日目のフリートークの班で交流したが、最後のグループワークだったため、「ワークショップの班で交流したかった」という意見も散見された。次回開催時はワークショップの班でも最後に交流する機会があるとよいと考える。

3.4.2.1　全体共有会（満足度）事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2023運営 沖縄県立看護大学 脇田愛未】

◎参加者の満足度



56名の回答のうち、満足と回答したのは46名（82.1%）、まぁまぁ満足と回答したのは5名（8.9%）、やや不満と回答したのは3名（5.4%）、不満と回答したのは0名、参加していないと回答したのは2名（3.6%）という結果になった。

◎参加者の声

【満足】
・人の意見を聞くことで新たな視点を持つことができました。
・様々な視点から物事を考えることができた。
・振り返りの時間があったことで、3日間で培った学びや考えを言語化することができました。
・ワークショップを通して、学んだことをアウトプットすることで、自分の中で整理することができた。とても良かったと思います。
・お互いに発表することで、確かに!自分にも当てはまる！と思う場面が沢山あった
・振り返りながら、活動の感想などではなく活動から得られた学びや考えを共有できた点がよかった。フリートークのときとはまた別のグループでも面白かったかなと思いました。
・自己の振り返りをする時間も取っていただけてよかったです。
・LINKtopsを通してどのように成長することが出来たかを知ることが出来た。
・これからの活動をもっと頑張ろうと思えた
・3日間を振り返り、自分自身や沖縄県のこと、これから何もするべきかを考えることができたのでよかった。また、他の人と共有することで、お互いに頑張ろうという気持ちになることにもつながったと感じる。
・参加していない周りの人に向けてどんな風に伝えるかを同じグループの人の方法を知り、新しい気付きができて実践しようと思いました！
・振り返りを残すことができるという点で、紙に書くことがいいなと思った。
・全体共有では、この3日間を通し、自分の強みや地域課題などに目を向け考えられたことがとても良かったです。

【まぁまぁ満足】
・各々が学んだことを伝えることでこれ迄の学習を振り返れて良かった
・フリートークの最初のメンバーでのグループワークだったので、まず、とても話しやすかったです。フリートークで地元の事など話していたのでより、少ない時間ながらも内容を理解し、話終えることができたと思います。全体共有の後にフリートークの最初のメンバーと連絡先を交換出来る時間があったのも嬉しかったです！
・自分が相手に対して思っていた長所と違うのを相手自身から言われた時にこんな考え方もあるんだな、感心する場面が多かったのでよかった。

【やや不満】
・最後の時間は最初のいつもの班で交流した方が深く思い出に残るものになったのかなぁと思い、違和感があったので改善した方が良いと考えました。
・個人的にですが…LINKtopos2023は全体的に、現地でしか味わえない経験・体感からの学びという印象でした。そのため、ワークシートの学びの振り返りとは少しずれた印象を受けました。

3.4.3　3日目総括　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 平松萌々子】

３日目は受付終了後、全体集合写真の撮影、ポスターセッション、全体共有会、閉会式を行った。閉会式では、運営学生代表脇田愛未の挨拶、沖縄県立看護大学神里みどり学長の挨拶、北九州市立大学内田晃先生の挨拶が行われた。

ポスターセッションは、従来の閲覧形式とは一転し各団体の代表者がプレゼンテーションを行うという発表形式となったが、参加者の興味関心・向上心が高まった様子であった。他団体の活動を知ることで自分自身の活動を振り返ることにつながり、よい機会となっていた。一つ付け加えるとするならば、聞きたい団体の発表時間が重なり聞けない人がいるようであったため、改善の余地があると考える。全体共有会では、グループ内で学びや考えを共有し目標を発表することで他大学の学生との交流を深めつつ、参加者自身の今後に繋げることができるような会であった。来年度以降もこのような共有の場を設けることでよりよい学びとなると考える。

3.5　オープンチャットの活用について　【LINKtopos2023運営 新見公立大学 荒川真七帆】

◎概要

運営学生、現地運営学生、先生方、参加者で連絡を取るために

・運営学生、現地運営学生、先生方が入っている運営用のオープンチャット

・運営学生、現地運営学生、先生方、参加者が入っているオープンチャット

上記2種を作成し、大会準備期間～開催終了まで使用した。

◎成果

資料や連絡事項などを簡単に共有することができたため、有意義であった。

大会が終わってからも使用できるため、3日目のポスターセッションで上がった質問への回答などもオープンチャットを通じて共有することができた。

◎課題

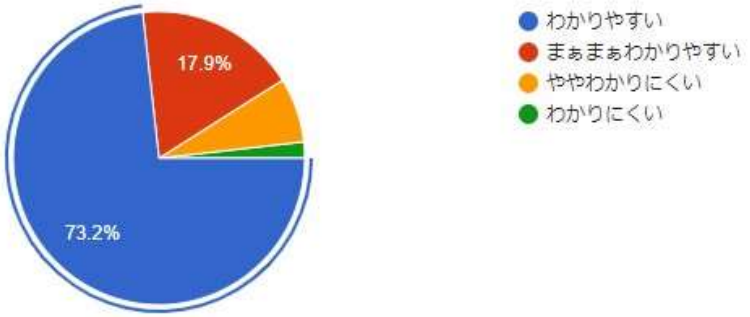
参加者の中にはオープンチャットの参加人数が多すぎて発言しにくいと思う人がいるため、十分に活用できなかったのではないかと思う。その例として欠席連絡が個人のメール届き、管理が難しかったことが挙げられる。ノートの機能などを活用し、当日の欠席者は事由と名前を書き込んでもらうなど、一般参加者も使用しやすい使い方をすることでより有効活用できるのではないだろうか。

3.5.1　連絡面における参加者の声　【LINKtopos2023運営 三条市立大学 菊田大亮】

◎概要

昨年同様、参加者にはLINEの機能の一つである「オープンチャット」やLINKtopos2023のメールアドレスを使用して、大会前、大会中に各企画の情報や事務的な連絡をする場として使用した。大会終了後にはポスターセッションで出た質問や意見の共有やWSで出た講師への質問の回答、大会中の写真の共有をする場として有効に活用された。

◎成果



大会中は運営学生、参加学生ともにスムーズな情報発信ができていたように感じる。また概要にも記入しているが、大会後にも情報共有の場として使用されているので、より深い交流ができているケースもあった。

◎課題

大会前にLINKtopos2023のメールアカウントからメールが届かないと言った声が多数上がっていたのでこれに対する対応を検討する必要がある。また大会中や大会後に参加する学生も見受けられたので何度か周知する機会を増やすべきだと感じた。

3.6　SNSの活用について

【LINKtopos2023現地運営 沖縄県立看護大学 西本有希 當眞未来】

◎概要

Instagram, X(旧twitter), LINEを活用した。宣伝、広告はInstagram, X(旧twitter)を利用し、事前の告知や準備の様子、沖縄の情報、大会の様子を発信した。

◎成果

アクセス数（294%増加）、フォロワー数（52人増加）、いいね数、全て増加し、参加者や関係者のみならず、多くの方にこの大会の存在や活動内容を知ってもらうことができ、広告・宣伝効果が大いにあったと考えられる。また、大会後に参加学生・運営学生が投稿を見返すことで、活動を振り返り、今後にどう活かしていくかを考える良いツールともなっている。

◎課題

Instagramは活発に更新していたものの X(旧twitter)の方は手が回らず、更新頻度が落ちていたため、SNS係を増やすなどして滞りなく情報発信していくなどの改善が必要だと考えられる。また、主に大会期間中にSNSのフォロワーが増えたため、大会参加募集の段階からより多くの人に知ってもらうため、次年度は大会参加募集のポスターに上記SNSアカウントのＱＲコードも掲載し、多くの参加につながるようにしていきたい。

3.7 プログラム全体を通して　【LINKtopos2023運営 福知山公立大学 清水彩華】

今年度の本大会はコロナウイルスが収まりマスクが解禁されたため、ほとんどの参加者がマスクを外して参加していたように思える。そのため相手の表情を見ることが出来て参加者の人が皆楽しんでいる表情をしていた印象が私の中で大きく残っている。大学、年齢、性別、地域など環境や考え方が違う様々な大学生が集まり、開催地である沖縄の①戦争・平和、②教育、③文化・芸能伝統に関してそれぞれのグループに分かれて参加者の方々に学んでもらうきっかけを作ることが出来たと考える。

沖縄について学ぶだけでなく、同じグループの人達と交流する事で仲を深めたり１つのお題に対して様々な角度から考えたり学ぶことが出来たのではないかと思う。

大会の開催直前に台風の影響によりオンライン開催になる可能性が出てきたが、本番は対面開催を迎えることが出来て本当によかったなと改めて感じた。

1日目は各グループでアイスブレイクやまち歩きを行い、はじめましての方達との仲を深めることが出来たと考える。

2日目は各ワークショップに別れ、各分野に別れ「沖縄」について深く学ぶことが出来た。

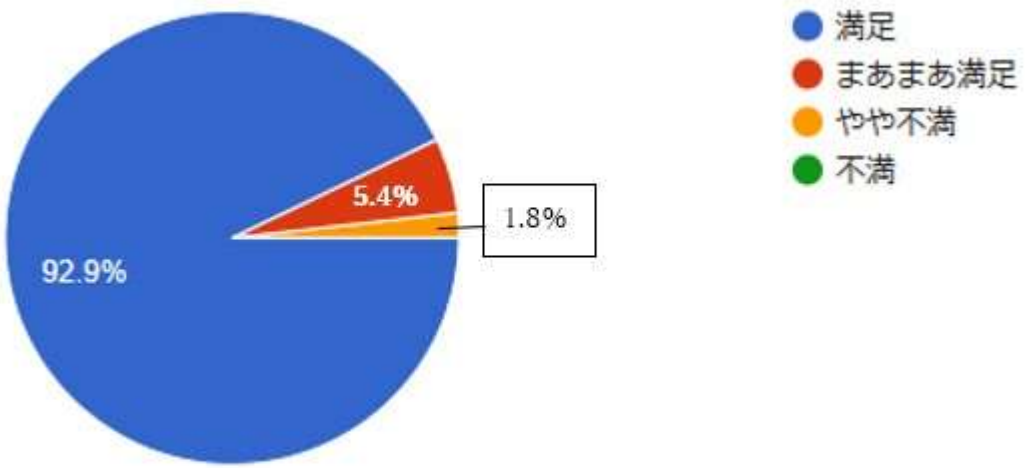
3日目はポスターセッションを行い、各大学の団体が行っている活動に関して知ってもらう機会になったと考える。

LINKtoposの開催は、大学や環境が違う多くの大学生たちを繋ぎ、実際に集まることで交流する「きっかけ」をつくると考える。

3.7.1　プログラム全体の事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2023運営 新見公立大学 池本花梨】

◎事後アンケートの結果



56人の回答のうち、満足と回答したのは52人、まあまあ満足と回答したのは３人、やや不満と回答したのは１人という結果となった。

◎参加者の声

・違う学部・学科、地域の学生と交流する機会は少なく、またコロナ世代でこういった関わり合いは特に印象に残った。
・企画によってクオリティにムラがあったのが残念でした。
・観光として来るだけではわからなかった沖縄の魅力が知れたことと、他大学から来た学生との交流ができたのがよかったです。
・最初に、個人の目標等を設定して、最後の共有の前に自分でフィードバックする等の活動も加えていただけたらもっと素晴らしくなると思いました。
・楽しみながら、自分の学びも深められる有意義な時間になった　自分の地域の強みや特徴、また改善できる点や活かしていくべき点に気づくことができた
・LINKtoposがどんなことするのかあまり知らずに来たので、ワークショップが沢山あり面白かった。地域創生に取り組んでいる学生が多いですが、そうでは無い人もいて、その人に自分の活動を分かりやすく興味を持って貰えるように話すことを意識して話したりできたのは良かったと感じる。
・沖縄という地を学ぶということはもちろん、自分の地域のことを考えるきっかけになりとてもいい機会になりました。全国から集まる学生と関われる機会も今までなかなか無かったので、とても楽しくて3日間あっという間でした。正直名残惜しいです…。
・参加する前の取り組みや、今後の生活に関する考え方が変わった。井の中の蛙状態だったと思った。地域的に近い人とは今後も交流が持てそうで良かった
・全国の大学生と交流して、話しているうちに文化が違うことがわかって楽しかったです。沖縄のことについてたくさん知れて自分の地域について見つめ直すことができてとても有意義な時間でした！
・沖縄という風土を生かしたLINKtopsで楽しかった
・今回、初めてLINKtoposに参加しましたが、いろんな大学から集まった出身地の違う学生達とたくさん交流でき、自分の視野も広がりました。また、沖縄に生まれて育ったのに知らないことが多くあり、県外から来た人にうまく説明できないこともあったので、もっと色んなことに興味を持とうと思えました！

3.8　大学からの補助について　【LINKtopos2023運営 兵庫県立大学 田尻翔吾】

◎概要

今大会においては公立大学生が沖縄へ集まったが、回答者56人の内、8割を超える46人が交通費・宿泊費の全額あるいは一部金額の補助を大学から受けていた。
内容については3.8.1に詳しいが、一部金額や上限額設定の上であることが多かった。
一方で2割近い10人は補助を受けていなかった。

◎課題

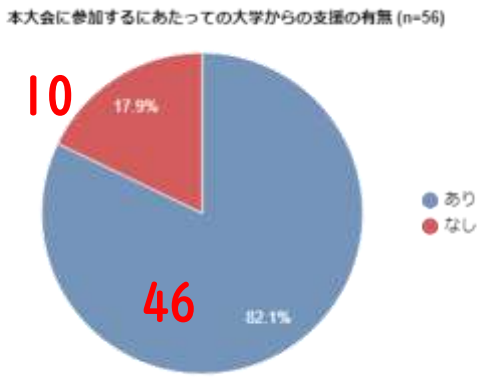
LINKtoposは全国の公立大学生が一堂に会することによりその意義が大きく発揮される大会である。
このため、なるべく広い範囲からの公立大学生の参加を募りたいものの、大学によっては長距離の移動となる可能性が高いこともあって、金銭的都合から参加を見送ることも大いに考えられる。

そのため、支援上限額の設定や、上限人数の設定により、多少なりとも、多くの大学からLINKtoposに参加できる学生が増えることを願う。

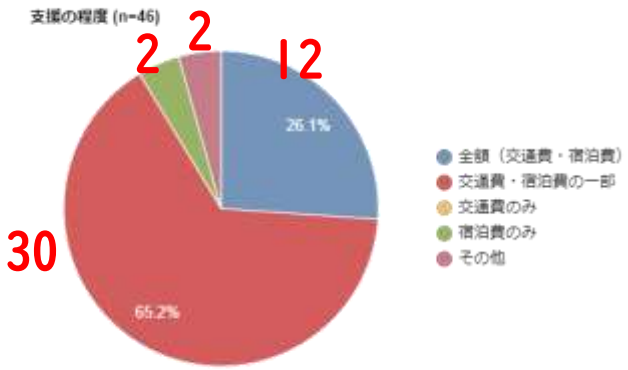
3.8.1　大学からの支援の詳細について

【LINKtopos2023運営 沖縄県立看護大学 脇田愛未】

◎本大会に参加するにあたっての大学からの支援の有無



56名の回答のうち、ありと回答したのは46名（82.1%）、なしと回答したのは10名（17.9%）という結果になった。



また、支援がありと回答した46名のうち、全額（交通費・宿泊費）の支援と回答したのは12名（26.1%）、交通費・宿泊費の一部と回答したのは30名（65.2%）、交通費のみと回答したのは0名、宿泊費のみと回答したのは2名（4.3%）、その他と回答したのも2名（4.3%）という結果になった。

◎交通費・宿泊費の一部とその他の回答について

【交通費・宿泊費の一部】

・飛行機代と宿泊費のみ。沖縄の移動と空港の駐車場などは出ない。

・飛行機代とホテル代のみ。（その他交通費は自己負担）

・交通費→家から地元の都道府県の空港までの行き帰りの運賃、飛行機の行き帰り(事務局の人が飛行機の最安値を調べて、その最安値の分の金額)、沖縄内で大学までの移動費(雑費として固定の金額)
宿泊費→素泊まりの場合にはこの金額、朝食付きの泊まりならこの金額までと固定で決められている。
・宿泊する人は宿泊費ありの交通費はなし、逆に宿泊しない人は交通費を負担していただきました。
・宿泊費は1泊/7500円、交通費は支給するが、額は事務で検討。
・ホテル代はMax7000円。
・1泊当たり8200円までは支援金が出た、前泊分は出なかった。
・宿泊費は1泊当たり8200円の補助金が出ていて、それ以上は自腹だった。
交通費とは今回のリンクトポスではバス移動を、使ったが領収書がないから請求が出来なくてその点は自腹になる
・宿泊費は全額出るが、交通費についてはよく分からない。航空券については大学がみた時点で１番安い値段と言われた。
・まだ決まっていませんが、交通費の一部を補助してもらえるとのことでした。
・自分で運転する人は、高速代は貰えますが、ガソリン代はもらえません。
・宿泊費と駐車場代は出ます。ガソリン代についてはわからないので、一部を選択しました。
・途中の交通費の細かいもの。
・大学見積もりの分だけは補助されます。
・先着５名に３万円。
・先着６名に３万５千円。
・大学から１人３万円弱の補助金が出ます。
・まだ相談中ですが、２～３万円ほどいただけるそうです。
・３万５千円大学からリンクトポス後に支給。
・半額補助。
・詳細はまだ分からないです。

【その他】
・３万５千円の支給

【なし】
・大学に支援制度自体はあるのですが、今年は希望参加者数が多かったため、全員には支給されませんでした。

4.ファシリテーション講座について

【LINKtopos2023運営 名古屋市立大学 伴有真】

◎概要

2023年8月29日10：00～12：00にオンラインで行い、23名が参加した。参加学生がファシリテーションの基本的な技術を事前に学ぶことにより、大会当日に学生で自律的にグループワークを行えることを目的に行った。福知山公立大学地域経営学部の谷口知弘教授に「応援井戸端会議」という話し合いの体験ワークも踏まえてファシリテーションやグループワークのポイントを教えて頂いた。また、12時からは任意参加でランチ懇親会を行い、参加者同士で親睦を深めることができた。

当日の運営体制について以下に表記する。

・事務局(運営学生3名、企画チーム教員1名)

➡当日の司会進行や出欠確認、Zoomの管理やトラブル対応など運営の事務的な作業を行った。

・グループリーダー(GL)(運営学生8名(うち2名事務局と兼任))

➡各グループ1～2名設置し、グループ内でのワークの進行補助をしてもらった。GLには事前に「GL集中会議」もしくは、そのビデオを事前に見てもらい、ワークの内容や注意点などを伝えた。

◎成果

・事務局やGLなど役割を事前に明確化したため、当日大きな混乱や問題なく、運営することができた。

・8月27日(開催2日前)にメールを発出したことにより、当日の無連絡欠席者を減らすことができた。

◎課題

・ファシリテーション講座の担当学生が他に2企画以上担当をもった状態で分担してしまったため、計画途中でキャパオーバーし、当初の計画より大幅な変更を行い、企画チームの先生にも大きく補助頂いた。次年度以降は専任の学生を置くことにより、運営学生でファシリテーション講座も計画・運営できるようにしたい。

4.1　ファシリテーション講座の事後アンケート結果

【LINKtopos2023運営 名古屋市立大学 伴有真】

◎事後アンケートの結果

Q１　今講座の内容について満足度を教えてください(１～５の５段階で５が満足)

回答者：一般参加者、GL計20名

５➡１６名

４➡３名

３➡１名

１，２は０名

Ｑ２　今講座の運営面について満足度を教えてください(１～５の５段階で５が満足)
回答者：一般参加者１３名
５➡１１名
４➡２名
１，２，３は０名

Q3　今回GLをやったてごたえを教えてください(１～５の５段階で５が簡単)
回答者：GL7名
４➡２名
３➡２名
２➡３名
１と５は０名

Q4　ファシリテーション講座の内容説明のYoutube動画(26日の会議に参加した人は会議内での説明)は役に立ちましたか？
回答者：GL7名
大変役に立った➡５名
役に立った➡１名
あまり役に立たなかった➡１名
全く役に立たなかった、見てなかったは０名

◎参加者の声
★内容の満足度の理由について
・今回の講座で、運営が指揮を行い、説明を受けるだけでなく具体的な方法を実践してもらいながら学ぶことが出来ました。(Q1では５と回答)
・今回の講座を通してチェックインや問いの立て方などを工夫することで、リラックスしながら話し合いをすることが出来ることを実際のグループワークを通して知る事が出来たから。(Q1では５と回答)
・この講演に参加をしないと気づけないような学びがたくさん得られ、他大学の学生の方とも交流ができたから。（Q1では５と回答）
・自身の悩みについて客観的なアドバイスや解決アドバイス等、新たな気付き・学びが得られたため。（Q1では４と回答）
・時間が足りずメンバー全員が発言できなかった場面が多々あった（Q1では３と回答）

★運営面の満足度の理由について
・滞りなく、円滑に進行しており、準備を万全にしていただいていたことがうかがえたから。(Q2では５と回答)
・話が詰まりそうになった時に、進行役や話題作りを率先して行ってくれました。(Q2では５と回答)
・流れがスムーズで、時間も代替守られていたから。(Q2では５と回答)

★講座を通して、ファシリテーション講座で学んだことを書いてください

・日頃、「雑談」はタイミングとかを気にしたり、あまり気軽にできないもの、してはいけない時もあるものであるという認識だったが、今回の講座において日頃の「雑談」を大切にすることで関係性を気づいておく上でとても大切なとなのだと学んだ。
・一人ひとりが積極的に発言することは良いことだが、必ずしも多く話せばよいということではないということを学んだ。そのような意味で、「時間のデザイン」の重要性に改めて気づいた。タイムキーパーの役割はもとより、発言者が要点を捉えて簡潔に話すこともワークショップにおいては必要であると考える。
・アイスブレイクから入ることで、行動から入るよりも結果の質が良くなることを学びました。また、話し合いを見える化することの大切さも学びました。今後に生かせる有意義な時間でした。

★(GL向け)進行役を行っての感想を教えてください

・途中参加の学生もいたが、タイミングを見て自己紹介を促したり、井戸端会議も実施できた点がよかった。
・どもってしまう人への対応が難しかった。
・来年度も行うのであれば、進行役を参加者で話し合うようにして運営以外が進行を行うのも楽しそうだなと思いました。
・全員に話を振ることができて、スムーズに進められたことが良かったです。改善点は雑談があまり出来なかったことです。

5.次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言

【LINKtopos2023運営 福知山公立大学 冨江美有】

ここでは、運営メンバーの間で出た意見を元に、運営に関する課題について3点述べる。
まず、1点目は、今年度から導入されたGoogleチャットが上手く活用されていなかった点である。各班がどのような話をして準備を進めているか、LINEであると分かりづらいという昨年度の反省を踏まえ、今年度から運営の連絡手段としてGoogleチャットを導入したが、準備を進めていくにつれて、ほとんどLINEでの連絡となってしまった。このようになってしまった原因としては、Googleチャットに慣れてない人が一定数おり、連絡に対する反応の少なさから連絡の行き届きにくさを感じたため、LINEでの連絡が増えたと考えられる。次年度以降は、このような結果を踏まえ連絡手段をどうしていくか検討すべきであると考えられる。

次に2点目は、会議の出席率の低さである。今年度の運営の全体会議は全体で話し合うことが必要な時期(3月～4月、7月～8月)は毎週土曜日の22時から、WSごとの話し合いがメインになってきた時期(5月～6月)は運営メンバーの負担を減らすため、隔週で実施していたが、毎回会議の出席率が低かった。なるべく会議の回数を最低限にしていたものの、会議が多く負担になっていた可能性や学校や就活など外部での活動が忙しく、参加が難しかった可能性など、様々な要因が考えられる。しかし、参加学生の募集を行う時期に各プログラムの調整や準備が間に合っていなかったことからも、積極的な話し合いへの参加をしてもらう必要があると考える。連絡手段も踏まえ、オンラインでのやり取りは意思疎通が難しい部分があるが、次年度はより運営同士の交流を深め、気軽にやり取りができる関係性を構築し、円滑に準備が行えるようにしていくべきだと考える。

最後に3点目は、運営学生と現地運営学生の立ち位置に関してである。今年度は沖縄の公立大学の皆さんとも一緒にLINKtoposを作ってほしいという方針により、「現地運営学生」として募集を行った。結果として、まちあるきや準備の段階でたくさんの現地運営学生の皆さんにお手伝いいただいたことにより、LINKtoposがより良いものになった。その一方で、立ち上げ時に現地運営学生の役割が明確になっていなかったため、運営側は現地運営学生に対してどのような役割を任せればいいのか、どこまで頼ってよいのか、途中から参加していただいたため、企画の趣旨が理解してもらえているかといった問題が生じた。今年度は学業の都合上、運営に関わるのが難しい人が多数いたということで、運営と現地運営学生を分けていたが、次年度は、分けることのメリット・デメリットや分ける意味を運営立ち上げ段階で検討した上で、進めていくべきだと考える。

6.全国公立大学学生大会の今後の展望について

【LINKtopos2023運営 沖縄県立看護大学 脇田愛未】

LINKtopos初回開催から11回目大会であった今年は、対面開催で再出発した昨年度の大会を踏まえ、まちあるきやワークショップなど実際に自分の五感や体を使用し、観光では学ぶことの出来ない「沖縄」について知る、沖縄対面開催に相応しい大会となった。一方で反省点も多く見受けられ、今後、さらに良い大会へしていくためには、反省点を改善していく必要がある。以下2点、今後の展望について述べる。

① より多くの学生に参加してもらう事

LINKtopos2023は沖縄開催だったということもあり、九州・沖縄地方からの参加者が多く、次いで近畿地方、中国・四国地方の順で、全体の85%を占めていた。沖縄から遠い東北地方からの参加者は全体の4.7%であったが、旅費が高額な中で多くの学生に参加していただくことが出来た。LINKtoposの強みは、大学で専攻していること、生まれ育った背景や地域などが全く異なる全国の大学生と交流することが出来るという事である。様々な地域の学生がLINKtoposに参加し、話し合う事で、新たなアイデアが生まれる。また、LINKtoposで得たアイデアを地域に持ち帰る事は、地域がより活性化することに繋がると考える。そのため、多くの公立大学生にLINKtoposに参加してもらう必要がある。今年度は、募集が7月下旬と開催直前になってしまったことが金銭面での負担増大の要因だと考えるため、次年度以降は開催案内時期について考える必要がある。また、これまでLINKtoposへ参加したことが無い大学の学生においては金銭面での援助が無かったという話があった。これまでLINKtoposからの援助は無かったが今後より多くの学生に参加してもらうためにも、LINKtoposとしての金銭面での援助を考慮する必要があると考える。これまで11回開催してきたLINKtoposであるが、知名度が低いというのは、多くの学生に参加してもらう際の弊害となる。LINKtoposの知名度向上のためにも、これまでの広報活動を見直し、より多くの学生や教職員に知ってもらうための広報活動を行う必要があると考える。

② フィールドワークなどで実際に体験し、その地域のことを知る機会とすること

これは、反省点ではなく次年度も引き続き行ってほしい事である。今年度のLINKtoposのワークショップテーマは、昨年度の反省を踏まえ、沖縄に関連する課題とした。また、まちあるきでは首里の街を実際に歩き、どのような「まち」なのかを知る機会を設けた。ワークショップにおいても、WS①では沖縄県平和祈念資料館を見学しにいったり、WS③では沖縄の踊りを踊ったりするなど、実際に経験することで、ネットや本を読んで得る知識よりも、より深く記憶として残ると考える。今後も対面開催を実施する意義としても、開催地の文化などを実際に肌で感じることが出来るという点があげられる。フィールドワークを行うと限られたプログラムの中で、議論する時間の確保など調整が難しいが、ぜひ来年以降も教室にこもり、あるテーマについて議論するだけでなく、対面開催という利点を生かし、体験しながら学ぶということを継続してほしいと思う。

7. 謝辞

令和５年度全国公立大学学生大会LINKtoposの開催に際して、ご指導・ご支援をいただきました、企画チーム専門委員の先生方、公立大学協会事務局職員の皆様、そして会場の提供、運営に協力していただきました沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学の教職員の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今年度でＩＩ回目となりました本大会は昨年度に引き続き対面で開催することが出来ました。今回はLINKtoposの意義の見直しから始まりましたが、参加者に満足していただけるような大会を開催することが出来たのは、参加してくださった学生・教職員・学長の皆様の協力と理解があってこそだと思います。

改めて、協力していただいた多くの皆様へ、心より御礼申し上げます。

令和5年度　公立大学学生ネットワーク
代表　沖縄県立看護大学　脇田　愛未

8. 公立大学学生ネットワーク運営学生 名簿

代表
沖縄県立看護大学　看護学部　　３年　脇田愛未

副代表/事務統括
福知山公立大学　地域経営学部　　３年　冨江美有

企画統括
名古屋市立大学　総合生命理学部　　４年　伴有真

運営学生
岩手県立大学　総合政策学部　　４年　及川駿斗

岩手県立大学　ソフトウェア情報学部　３年　國井大地

三条市立大学　工学部　　３年　菊田大亮

名古屋市立大学　経済学部　　２年　古川晴紀

福知山公立大学　地域経営学部　　２年　清水彩華

兵庫県立大学　環境人間学部　　３年　田尻翔吾

新見公立大学　健康科学部　　４年　徳山光希

新見公立大学　健康科学部　　３年　荒川真七帆

新見公立大学　健康科学部　　３年　池本花梨

新見公立大学　健康科学部　　３年　平松萌々子

新見公立大学　健康科学部　　２年　河本はるの

新見公立大学　健康科学部　　２年　小堀歩菜

新見公立大学　健康科学部　２年　難波朱華

沖縄県立看護大学　看護学部　３年　金城凜花

現地運営学生

沖縄県立看護大学　看護学部　３年　照屋友萌

沖縄県立看護大学　看護学部　３年　當眞未来

沖縄県立看護大学　看護学部　３年　西本有希

沖縄県立芸術大学　音楽学部　３年　伊禮真実

沖縄県立芸術大学　美術工芸学部　３年　儀間かのん

沖縄県立芸術大学　音楽学部　３年　松本陽佳里

沖縄県立芸術大学　音楽学部　１年　松本亜依

名桜大学　人間健康学部　４年　上江洲風香

名桜大学　人間健康学部　４年　津覇佳乃

名桜大学　人間健康学部　３年　山城凜花

名桜大学　国際学部　２年　山本望晴

名桜大学　人間健康学部　１年　清川颯斗

名桜大学　人間健康学部　１年　島袋さくら

名桜大学　人間健康学部　１年　金城望愛

Orion